



創刊号によせて

水産大学校長 青山恒雄

水産大学校  
 ⑦759-65  
 下関市吉見永田  
 本町1944  
 編集兼発行  
 学生部  
 電話0832(86)5113

日本との企業斗争に苦戦をかこつている米国で、このところ日本型企業方針の再評価を行っているようです。日本型のどこにほれたのか良くは知りませんが、個人の能力と作業能率に重点を置く米国式に対し、企業内の人の和を貴ぶ日本式の意外な力に驚いているようです。

戦後、何ごとにつけても米国を規範とした頃には、冷酷なまでに合理主義、能率主義に徹したやり方に、「とてもついていけないや」と嘆じたものです。経営方針の遅れを痛烈に指摘されながら、それでも国内では日本型の大綱は守られて来たようです。良い意味で人の和を貴ぶということが、ともすれば度を過ぎた温情主義や日和見主義に流れ、大国鉄の崩壊の一因となったというような面も有ったでしょうが、一方では日本企業が米国企業を凌駕する面も見せて来ているのです。さて、組織内の調和・協調の基本

は何かと考えてみますと、構成員各自が、組織の運営方針を信頼し、他の構成員の立場を認めるとともにその活動を尊重しながら、自分の役割りに責任と誇りを持ちながら仕事をすることにあると言えるでしょう。ところで、非現業の組織体、特に教育・研究機関では、そうしたことに有用な情報伝達が充分に行われているとは言い難いところがあります。そこで、今回、学生部の発議で「学園だより」を発行し、校内での意思疎通の一助とすることになりました。極めて有意義な試行ということができます。

昨年末、本校の前進のための一つの手だてとして、学園だよりを発行したらいかがかとの声が学生部内から起こりました。前々から部内では学園内の構成員である学生・教官・

学生部の願い

長期的展望に立って

学生部長 網尾 勝

大学校運営に関しては勿論、教育研究に関する一般的問題についても卒直な御意見を寄せられるよう期待します。なお、こうした活動には、継続することと中身の充実とが肝要です。御支援の程、重ねてお願いする次第です。

事務官三者間の連携を一層深め合っで行きたい、このための潤滑油となり求心的役割をする何かを求めているのでした。このことは部内の教職員が本校教育に対して、常日頃から

きまします。当面は学生部が編集発行を担当しますが、試行の結果を見て、いずれは特別の委員会を設けて作業することになると思います。今日、多くの大学でこの種の広報活動が行われています。多くは学園紛争終結後創刊されていますが、その動機には、学内の意思疎通の欠如が紛争発生の一原因であったことへの反省があったと聞いています。日本型運営の前提として、学内コンセンサスを保持しようと意図したものでしょう。

並々ならぬ情熱をもっていること、現われであり、誠に有難いことであります。反面、この種の刊行物の編集や発行に対して払われる教職員の努力と苦勞を思うとき、正直なところ躊躇する気持と、果して中途挫折することなく続けられるだろうかとの不安の念をもったことも事実であります。しかし、たとえ当初は拙い内容であつてもよい、熱意を傾けて発行を続けていくことにより、次第に充実し、立派に育って行くであろうとの考えで、皆で踏み切るようになりました。

この度は、種々と内外の教育に関する諸情報の得やすい立場にある学生部が、ひと先づフロントの役目を果たすことにしましたが、意のあるところを汲んで戴き学内の皆様の絶大なご支援をお願いする次第です。そして、このささやかな「たより」から生まれ出る輻射熱が、わが学園全体の融和と前進のために一つでも役立つようになることを衷心より願っております。

願わくばこの学園だよりが、学内の多くの意見や評価を出し合い、ぶつけ合う場ともなつて、学園の前進のための新しいエネルギー源となることを期待しております。

# 本校の入試について

六十二年度入学者選抜委員長 児玉 識

本校の入学者選抜方法には、学力検査による一般入試(二月中旬実施)と、推薦入試(十二月中旬実施)の二通りがある。

前者は、下関と東京の二会場に分かれ、英語、数学、理科(物理、化学、生物のうちから一科目選択)の三教科で行われる。共通一次試験より二教科少なく、しかも悪評高いマーク・シート方式ではなく、記述式であるところが特色で、オールラウンドに全教科にわたって受験技術に秀でていなくても、三教科の基本をよく理解し、応用力のある者には有利であろう。

後者の推薦入試は、水産高校出身者のみを対象とするA制度と、特定

## 推薦・一般入試の志願者数等

(括弧内は内数で女性、昭和62年2月25日現在)

学科	推薦入試		一般入試 志願者数
	志願者数	合格者	
漁業	15 <sup>A-4</sup> / <sub>B-11</sub>	11 <sup>A-3</sup> / <sub>B-8</sub>	133
機関	14 <sup>A-7</sup> / <sub>B-7</sub>	9 <sup>A-5</sup> / <sub>B-4</sub>	117(2)
製造	23 <sup>A-2</sup> / <sub>B-21(2)</sub>	12 <sup>A-2</sup> / <sub>B-10(2)</sub>	237(1)
増殖	51(4)	7(1)	568(5)
計	103 <sup>A-13</sup> / <sub>B-90(6)</sub>	39 <sup>A-10</sup> / <sub>B-29(3)</sub>	1,055(9)

高校出身者に限定しないB制度との二つに分かれ、調査書および推薦書による第一次選考合格者に対し、二次選考で、A制度受験者には面接、小論文を、B制度受験者には面接および英語I、数学I程度の内容の基礎学力試験(漁業学科のみ小論文もある)を課している。ただし、増殖

学科はB制度だけで、A制度はない。募集人員は、漁業、機関、製造の三学科はそれぞれ約五〇名(うち、推薦入試A制度五名以内、同B制度



## 学部

一〇名以内)、増殖学科は約三〇名(うち、推薦入試B制度六名以内)となっている。本年度の競争率は、最高の増殖学科で二〇・六倍、全学科平均で六・四倍。

最近の傾向として、女子の受験者が増えている。男女いづれにしろ、水産が好きで、目的意識のしっかりした若者に多く受験してもらいたいものである。

# 就職

### だより

昭和六十一年度(六十二年三月卒)

構内の梅も咲き揃って、今年も又卒業期がめぐって来た。

それぞれに長くもあり、短くもあつたであろうキャンパス生活を了えて、社会人として立派に巣立つて行く姿は、いつみても喜びが湧いて来る。

さて、今年度の就職状況であるが、全体的には相変わらず、求人側に全部は応えることが出来ず、失礼を重ねる会社もあり、うれしい悲鳴というところである。

公務員には、毎年十数名が採用され、就職予定者の十二・三パーセントの好成績を維持して来ていることは大学の規模からすれば、大いに誇れることで、今後とも切磋琢磨して、一層の向上を計るよう後に続く者に託したいものである。

次に就職先を紹介します。全部を列記出来ないので主要三十社にとどめたので御了承願いたい。

- 農林水産省 五名
- 水産庁 四名
- 山口県 二名

- 福岡・岡山・兵庫県 各一名
- 全国漁業協同組合連合会 一名
- 神奈川・香川・長崎県 各一名
- 各漁業協同組合連合会 四名
- 日本水産(株) 四名
- 大洋漁業(株) 四名
- 日魯漁業(株) 三名
- 宝幸水産(株) 二名
- 東洋水産(株) 二名
- 金子漁業(株) 二名
- 大都會(株) 二名
- 大阪魚市場(株) 一名
- 名北魚市場(株) 一名
- 滋賀県魚市場(株) 一名
- 東芝エンジニヤリング 二名
- 山武エンジニヤリング 二名
- (株)アマグメトリック 二名
- 大和製缶(株) 一名
- 新日本空調(株) 一名
- 新明和工業(株) 一名
- ダイキンプラント(株) 一名
- (株)キューピー 二名
- ケンコーマヨネーズ 三名
- 林兼産業(株) 一名
- 日清食品(株) 一名
- 丸大食品(株) 一名
- 一番食品(株) 一名
- 西友フーズ(株) 一名
- 日本ハム(株) 一名
- 伊藤ハム(株) 一名
- 金子真珠(株) 二名
- 日本農産工業(株) 一名
- 中部飼料(株) 一名
- 大栄太源(株) 一名

(厚生課)

# 大学祭、通称海燕祭

## 「可能性への挑戦」

大学祭実行委員会(委員長・製造学科三年生・平伸介)のもとに昭和六十一年十月十八日と十九日の両日にわたって開催された。

本大学祭は、過去数十年間、梅雨期の六月下旬に挙行されてきたため雨天の場合が多く、十分な催しができなかった。このため昭和六十一年度は、十月に大学祭を変更し、更に副題に示すように大学祭に積極的に参加し、学生自らの手で作り上げる様々な可能性への挑戦が企画された。両日は晴天に恵まれすべての行事が盛大裡に終了した。当日は一般的に催しの他、本校に特徴ある海産物展及びヨット試乗会には多くの地域住

# 学生自治会・クラブだより

我が水産大学校学生自治会は学生自治の精神に則り学問の自由を守り学生生活の向上を計るとともに全学生の総意を実現し、明朗堅実な学園を建設することを目的として、水産大学校本科全学生をもって組織されています。本会運営機関は執行部であり、会長を筆頭とし、運営を円滑に行うために事務局、文化局、体育局、厚生局の四つの組織をもつ。事務局は諸計画の立案及び諸事務

を行う。文化局は本会各文化部を総括し文化的諸行事を行い、同じように体育局は本会の体育部を総括し、体育的諸行事を行う。又、厚生局は本会員の厚生、福祉の向上のための諸活動を行う。本会はこの他にクラス代表者委員会、議長団、選挙管理委員会、会計監査委員会という機関を有する。又、本会の最高議決機関を学生大会とし、役員、規約改正、予算及び



民の参加があり、大変喜ばれていた。また、特別講演として本校耕洋丸船長、片岡昭吉教授の「遠洋航海談義」があり、本校の特異性が発現された講演であった。昭和六十二年度も同様十月に開催されます。昭和六十二年度実行委員会(委員長・漁業学科二年生・岡部憲幸)に対する絶大なるご協力をお願いしたい。(学生課)

決算、その他重要事項について審議決定する。なお、本会の運営は全学生の会費及び寄付金その他をもってこれに当てられる。本会は学生達の学園生活を充実したものとするために学園祭や新入生歓迎行事であるバスハイクなどを催している。特に学園祭は年々華やかなものとなり、これは特別委員会の学祭実行委員会によるものが大きい。このように本会は明朗堅実な学園の建設と充実した学生生活を目指し、会長以下、日々活動を続けている。

○文化局より  
現在文化局は、詩道会、写真部、E.S.S、音楽部、コンピュータ部、茶道部の六つの部を総括しています。各クラブとも伝統や文化、技術能力を深めあい競いあっています。また他大学との交流もさかんで、ここ下関の大学から東京や九州の大学まで交流の手を拡げているクラブもあります。クラブの構成人数に多少の差はありますが、文化部は人数にこだわらず各個人々々の活動内容の濃さ、深さをモットーに日々努力しています。

水産大には十九の体育部がある。どのクラブも熱心に汗を流している。その中でも三大クラブと言われているカッター、ラグビー、空手は成績も芳しい。特にカッター部は全国優勝までした実績がある。水産大でクラブをやっている者は大学に入っ

てからの初心者ばかりだから気軽に入部できる。大学に入ってまでクラブを、と思う者も多いだろうが、クラブに入って仲間と楽しく学園生活を送られたらいいのでは。(学生自治会長 池田隆広)

## 寒中水泳

本年二月十四日(土)に吉母海岸において、寮生(寮長・漁業学科二年生・平田拓三)二〇〇余名が恒例の寒中水泳を行った。この企画は、寮における行事の一環で、心身の鍛練を目的としているものである。当日は、気温十五度と水温十二度で晴天に恵まれ、約三十分間の遊泳の後、たき火を囲み、更に熱いぜんざいと少量のお酒で体の内外で暖をとった。若者の心身の鍛練には適切な行事であろう。寮役員の慎重な対応で無事終了できたことは、寮役員の自治活動に大きな糧となるものである。(厚生課)



「気温15度、水温12度」

### 漁業学科学科授業科目等の変更

#### カリキュラム改正の目的

我が国の漁業は、新海洋法時代における枠組みの中で急速に国際化が進むとともに、エレクトロニクス等の新技術導入による技術革新が著しく進展している。又、二〇〇海里体制の定着により、漁業生産をとりまく諸分野の管理技術も飛躍的な進歩を遂げつつある。

このような漁業界の動向に即応した学理と技術を取り入れ、新時代の要請に応え得る人材を育成するためカリキュラムを改正した。なお、カリキュラムは、学生の将来の進路に沿って能率的に履修できるように、漁業技術学と漁業管理学の二課程に分けて編成した。両課程とも漁業基礎

科目及び一般教育科目等は共通であるが、それぞれの課程で次のような特徴がある。

#### (一) 漁業技術学課程

専攻科船舶運航課程と連携させた一貫教育により、漁業生産の専門分野と、近代化漁船対応の高度の船舶運航技術について広く履修する。したがって、卒業に必要な単位数は、一六五以上である。

#### (二) 漁業管理学課程

漁業生産(漁具・漁法・漁業機器、水産資源及び漁業管理の三つの専門系列から、一系列を主攻として選択し、漁業管理の技術的視点から深く履修する。なお、卒業に必要な単位数は、一四五以上である。

#### 授業科目等の変更

新設・改廃した授業科目等の主なものは、別表のとおりである。なお、

### 漁業学科学科 ( )内単位数

新設科目	
漁業機械学	(2, 技, 管)
水産資源管理論	(2, 管)
国際漁業論	(2, 専)
漁業技術学特論	(2, 専)
セミナー	(1, 技, 管)
外国漁業調査	(2, 管)
英会話	(2, 技, 管)
情報処理	(2, 技, 管)
沿岸漁場開発論Ⅰ	(2, 管)
沿岸漁場開発論Ⅱ	(2, 管)
水理学	(2, 管)
水産経済学	(4, 技)
削除科目	
漁場学演習Ⅱ	(2, 管)
電波工学	(2, 技)
海事概論	(2, 技, 管)
電子計算機概論	(2, 技, 管)
漁業調査	(1, 技)
卒業論文	(6, 技)
海洋生物学	(2, 管)
沿岸環境学Ⅰ	(2, 管)
沿岸環境学Ⅱ	(2, 管)
動物生態学	(2, 管)
気象学	(2, 専)
単位数削減科目	
沿岸漁業学	(4→2, 技, 管)
企業法概論	(4→2, 管)
地文航海学概論	(3→2, 管)

### 増殖学科学科 ( )内単位数

A. 新設及び充実科目	
1) 新設科目	
水産植物生理学	(2)
水産植物生態学	(2)
水族遺伝育種学	(2)
沿岸漁場開発論Ⅰ	(2)
沿岸漁場開発論Ⅱ	(2)
栽培漁業論	(2)
2) 充実科目	
情報処理	(2)
国際漁業論	(2)
B. 既往授業科目の削除および単位数の変更	
1) 削除科目	
動物発生・組織学実験	(1)
海洋生物学	(2)
水産土木学Ⅱ	(2)
水産土木学実験	(1)
2) 単位数の変更	
水産動物学Ⅰ	(4→2)
同 実験	(2→1)
水産動物学Ⅱ	(4→2)
同 実験	(2→1)
水産植物学実験	(2→1)
水族生理学	(4→2)
水産動物増殖学	(8→6)
水産植物増殖学	(3→2)
C. 講座外実習の新設及び充実	
1) 新設	
臨海生物学実習(7日)	(1)
2) 充実	
内水面増殖学及び陸水学 実習(7日)(1)を内水面増 殖学実習(7日)(1)と陸水 学実習(7日)(1)に分けて 行う。	

括弧内の技は漁業技術学課程、管は漁業管理学課程、専は専攻科船舶運航課程の科目であることを示す。

### 増殖学科学科授業科目等の変更

近年二〇〇海里時代の到来により、水産増養殖を重要視した結果、その技術が著しく進歩した。それに加え

て、バイオテクノロジー、エレクトロニクス、新素材技術、情報科学等のハイテクノロジーを増養殖に導入して、効率化をはかることが望まれている。

以上から、これらの技術を授業科目に取り入れるために、別表のとおり学則の一部を改正した。

### 魚類生理 特設コース 防疫

#### 一、コース設置の背景

近年、魚類養殖が世界各国で盛んになりつつあるが、反面魚病による被害も増大していることから、各国とも魚類生理に関する知識の修得と防疫対策の重要性を認識し始めた。そこで、国際協力事業団の要請にこたえて水産大学校は、開発途上国における水産指導者の教育研修を目的としたコースを開設することとした。

#### 二、コースの内容

研修期間 六十二年三月二〇日  
六月十八日(九十日間)  
研修員 六か国(中国・インドネシア・タイ・アルゼンチン・チリ・マレーシア)各国一名計六名

担当教官 久保田・網尾・武居  
早山・山元・高橋・伊丹各教官(増殖学科学科、藤澤教官(製造学科学科))

(庶務課)

### 編集後記

「水大学園だより」の創刊号をここに届けたいと思います。この目的は、学生の資質向上を計るため、教育職員と事務職員との強い連携のもとによりよい大学教育を目指す広報活動です。情報化時代に即して、文章化することによってよりよい相互理解と啓発が可能となります。更に対外的にも大きな情宣効果が期待できます。

今回は、暫定的に学生部編集兼発行ということで学生部内で企画編集を行いました。本「水大学園だより」は広報ですから学内全体の共有物です。そのため将来は、学生部を含め各学科学科、事務部並びに図書館の傘下のもとに企画編集を行うことが最適であろうと考えます。

昨年末の発案で時間的制約もあり充分な企画編集が行えませんでした。ご批判を仰ぎよりよい企画編集を行いたいと存じます。どしどし積極的なご意見をお寄せ下さるようお願い致します。

### Course for Fish Physiology and Prevention of Epizootics



# 創立五十周年記念事業委員会の発足にあたって

校長 青山恒雄

水産大学校  
 ☎759-65  
 下関市吉見永田  
 本町1944  
 編集兼発行  
 学生部  
 電話0832(86)5113

本校の前身である釜山高水産が昭和十六年に創立された時から起算して、昭和六十五年三月に創立五十年を迎えます。創立の年の暮れには第二次大戦に突入して、本校は誕生のその年から苦難の道を歩むことになりました。終戦、引き揚げ、無からの再建、そうした文字通り血の滲むような苦勞の中で、本校の成長がなされました。日本全体が敗戦の苦汁をすすって来たのですが、本校ほどの試練を経た教育機関は有りません。再建後も決して平穏な道

を歩んで来たわけでは有りません。農水省所管の大学校として、特性をどう發揮するかが何時も課題でしたが、国の制度上の障壁に悩まされることが屢々でした。そうした中から幾次かの学園紛争も生じました。しかし、難局はその都度突破され、その度に飛躍を遂げ、今日の姿を得ました。今、創立来五十年の歴史を顧みて、それに水産大学校の現状を重映させ、明日の道を求めることは極めて有意義なことと言えましょう。

今日、日本の一次産業は大きい転機におかれています。危機にあると言った方がよいでしょう。このため、農学系、水産系大学教育の体系の再編や縮小に関する意見も少なからず出されています。しかし、島国である日本にとって、食糧自給率をある程度保持することが必要である点について、疑義をさしはさむ人は僅かでしょう。ましてや、日本は農産にも水産にも非常に優れた自然環境に恵まれています。この利点を活かして農漁業の生産を維持することは、日本人に課せられた地球人としての義務とも言えます。

産業の基盤は人にあります。明日の水産を支える有為な人材を世に送ることが本校の使命であることは勿論です。水産が試験の時にあるだけ

に、逆境に耐え困難を克服する中で培われた本校の伝統こそが、今日苦境にあえいでいる水産に活を与え、明日の發展を呼ぶ原動力になり得るものと信じます。こう考えて、この厳しい折に、敢えて記念事業を起す次第です。

記念事業の資金として、総額一・五億円以上の寄附を企業と同窓諸氏に仰ぐ計画です。外部に協力を求めるからには、学内にある私達も率先して成功へ向けての努力をする必要があります。私は勿論、学校当局としても全力を傾注して事業の成功を期す覚悟です。皆さんの絶大な御協力を要請する次第です。



## この一年を顧みて

学生部長 神鳥 昭

学生部は、学生の修学と学生生活一般を支援する通常業務を行う傍ら、今年度の課題として交通事故防止・特別講義および広報活動に取り組ん

できました。そこで、これらの課題にスポットを当て、この一年を振り返ってみたいと思います。

(一) 交通事故防止 学生の車保有台数は三五八台に達し、十五件の交通事故が発生しております。交通事故は学業の挫折や学生生活の破綻を招くことが多いので、関係委員会と協力して事故防止に全力を注いできました。にも拘らず今年度も交通事故によって、数名の学生の心身が傷つけられたことを残念に思います。

交通事故の防止には、車を運転する各人が安全運転を心がけることが何よりも肝要です。また車を運転する者の責務として、任意保険への加入を切望する次第です。

(二) 特別講義 官界・実業界の第一線で活躍している専門家により、通常の授業とは異なる見地から行われる講義です。これは本校学生としての目的意識の確立と、学修意欲の觸発を主な目的とし、今年度は三つのテーマについて開講しました。

このような特別講義を聴く機会は得難いだけに、多くの学生諸君が聴講されるよう期待する次第です。

(三) 広報活動 学内構成員の相互理解と、学外への情報提供のため、広報活動は不可欠です。入試や学生の就職等に関連する学外からの照会に對しては、本校の実状を丁寧に説明し、ご理解をいただくよう努めておりますが、いつも感じることが本校のPR不足です。

広報については、より計画的・積極的な活動を展開する必要性を痛感しております。

学生部としては、これからの一年も今年度の課題を引き継ぎ、努力を続けたいと思っております。ご理解とご協力をお願いする次第です。

### 遠洋航海を

### 終えて

耕洋丸船長

片岡昭吉

耕洋丸の第四十八次航海は、昨年十月二十五日在校生、父兄の多くの入々の見送りを受け下関港を出港以来、本年一月二十八日の帰港までの九十六日間、総航程一五九八〇海里の航海であった。途中、オーストラリアのプリズベン、ニュージーランドのオークランド、トンガ王国の首都ヌクアロファ、ハワイのホノルルに寄港した。

乗船した学生諸君にとつては、本科最後の長期の実習航海であったと同時に、寄港した国々の経済、社会、文化、風俗習慣に接する良き機会、国際人としての視野を広めることができたこと、外から日本という国を眺められる最良のチャンスであったことと思う。特に、今回は通常の実習航海に加えて、国連からの要請によるトンガ王国周辺海域の海山の調査を、トンガ王国政府と共同で実

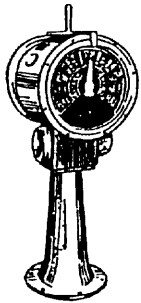
施したことは遠洋航海に大きな意義をもたせた。

御承知のように南太平洋諸国連合の十五ヶ国は、凡て我が国と同様島国であり、漁業はどの国にとつても重要な産業の一つである。

二〇〇海里時代の到来で、その大きな海域の資源の有効利用は、経済発展のための重要な産業の一つとなっており、多くの国々が漁業開発援助を期待している。我が国からもこれまでにはいろいろな型で援助がおこなわれているが、今回の耕洋丸の共同調査は援助の一環としても大きな役割を果たしたと思う。

調査は、乗船学生諸君の協力により、第一回の調査としては、可成りの成果をあげることができ、トンガ王国政府からも感謝の札状が届き、引き続きの継続調査の依頼もきている。

我が国の漁業にとつても、南太平洋海域は、かつお・まぐろを主体とした重要な漁場である。漁場確保の上でも今後益々これらの国々に協力し共存共栄の方策をとってゆかねばならないだろう。このことを考えると今回の遠洋航海は、例年にも増して大きな意義のある航海であった。



## 昭和六十三年年度

### 入試について

入学者選抜委員長 植松一郎

「富士山がくっきり見えています。」と、その早朝NHKが流していた二月十九日、一般入試当日は、下関・東京両試験場とも天候上の心配はな

く、スケジュールは予定通りこなされた。前年度来、A・B二つの制度で実施している推薦入試も、すでに先月完了しており、水産大内外の関係者のご協力により、無事終了出来たことを深謝します。

東京試験場については、本年度も東海大学のご配慮をいただいた次第です。

今年度は、コンピューター導入も一歩進み、入試業務は順調で、二十日現在の状況は別表のとおりとなります。



ります。

推薦入試Bで、増殖学科の場合、学習成績概評が三・七から四・〇以上に引きあげられたことで、志願者数が適正なところに落ち着いてきたと思われる一方、漁業・機関・製造三学科では、A・Bあわせて若干ではあるが伸びている。

一般入試では、東京試験場が受験生の注目を集めやすいのか、増加の傾向が続いており、入試全体を通じて女性志願者が引き続き増加していることも、見逃せないことである。

### 推薦・一般入試の志願者数等

( ) は女子、(昭和63年2月22日現在)

学科	推薦入試						一般入試		試験会場	
	A		B		計		志願者数	計	下関	東京
	志願	合格	志願	合格	志願	合格				
漁業	8	5	13	9	21	14	120 (2)	141 (2)	79	62
機関	6	5	9	6	15	11	121 (2)	136 (2)	87	49
製造	4	2	25(2)	13(1)	29(2)	15(1)	250 (6)	279 (6)	166	113
増殖			21(2)	6(1)	21(2)	6(1)	504 (2)	525 (2)	260	265
計	18	12	68(4)	34(2)	86(4)	46(2)	995 (4)	1,081(4)	592	489

# 就 職

## だ よ り

昭和六十二年(六十三年三月卒)

光陰矢の如し、四年前に校内のみごとな桜トンネルを通って入学式を迎えた新入生も、今、想い出のキャンパスから社会人として、たくましく巣立って行くこうとしている。感慨も一入であり、心から祝福を送り今後の活躍を折って止まない。さて、今年度の就職状況も、求人側の要求を満足させることが出来ず、うれしい悲鳴が続いている。これは、ひとえに先輩が頑張ってくれて来たお蔭であることに他ならない。今年度の卒業生も、これから続く後輩達のため、より一層の奮気をお願いする。

次に就職先を紹介しますが、紙面の都合上、三十社にとどめたので、ご了承ください。

### (公務員)

- 水産庁 二名
- 東京水産大 一名
- 山口県 二名
- 熊本 佐賀・長崎・沖縄県 各一名
- (各種団体)
- 農林漁業金融公庫 一名

- 全国共済水産業協同組合連合会 一名
- 神奈川・兵庫・香川県漁連各一名
- 全国沿岸漁業振興開発協会 一名
- (会 社)

- 大洋漁業(株) 七名
- 日本水産(株) 四名
- 日魯漁業(株) 二名
- (株)極 洋 一名
- ニチモウ(株) 二名
- 金子漁業(株) 一名
- 大都魚類(株) 一名
- 大阪魚市場(株) 一名
- 福岡魚市場(株) 二名
- 築地魚市場(株) 一名
- 日立造船産業(株) 一名
- 東芝エンジニアリング 二名
- 山武エンジニアリング 二名
- 山武計装(株) 一名
- (株)アマダメトリックス 一名
- (株)前川製作所 二名
- 新明和工業(株) 一名
- ケンキュービー 一名
- ケンコーマヨネーズ(株) 三名
- 東洋水産(株) 二名
- 日清食品(株) 一名
- 山崎製パン(株) 二名
- 東急フーズ(株) 一名
- 西友フーズ(株) 一名
- タケダハム(株) 一名
- 第一製菓(株) 一名
- 日本農産工業(株) 一名
- 日本配合飼料(株) 一名
- 中部飼料(株) 一名
- 日本蝕媒(株) 一名

### (厚生課)

# 大 学 祭

## ・新分野の開拓

水産大学の大きな行事の一つである大学祭が、大学祭実行委員会(委員長・漁業学科三年生・岡部憲幸)



のもとに昭和六十二年十月十七日と十八日の両日にわたって開催された。前日には、台風の接近が心配されたが、大学祭当日は秋晴れの天候に恵まれ、他大学の学生や地域住民の参加もあり、華やいだ雰囲気ですべての行事が盛大裡に終了した。

特に、日本における女性航海士の草分けの一人である本校耕洋丸三等航海士、西山友子女史の「私のお出会う女性たち」と題する特別講演は、副題の「新分野の開拓」にふさわしいものであった。

昭和六十三年度の大学祭実行委員会(委員長・機関学科二年生・竹村公雄)もすでに発足し、準備を始めています。皆様の絶大なるご支援をお願いする次第です。

### (学生課)

# 滄溟寮々祭

六十二年十一月二十一日から二十三日まで三日間、恒例の寮祭が開催された。

会食、夜間ハイク、運動会、かくし芸大会は例年通りであったが、仮装行列はこの数年変化している。

下関駅周辺の行列は従来終了後に解散していたが、六十年は下関漁港での、さかな祭りに練習船天鷹丸と共に協賛した。六十一年からは仮装

で練り歩いた後もシーモール内の広場にくり出して出演し、大勢の見物客から喝采を得たし、外部へ積極的にアピールする寮祭となってきた。

### (厚生課)



# 機関学科

## カリキュラムの

### 改正について

機関学科の教科は、マリン・エンジニア(船舶機関士)の養成を目指した船用機関学課程と、船用機関・水産機械などに関連の機械技術者の育成を目的とした応用機械学課程とに別れております。激動の時代といわれる近年の社会情勢をふまえて、今回、両課程のカリキュラム(教科課程)の大幅な改正を行いました。

### 改正に至る背景と諸問題

まず、船用機関学課程ですが、先般実施された船舶職員法の大改正に伴い、本校は五十九年度から運航士制度に対する教育を開始し、これを従来からの授業科目に上乘せする形をとりました。所が、四年を経た実施段階でこれを見ると、新技術関連の科目の漸増で以前から過密傾向にあった授業科目が、これを契機に一気に顕在化する事態を招きました。この結果、学生にとっては詰め込み教育、受身の教育となり、個人の自発に基づき自由な学習・研究とは程遠いものとなりました。

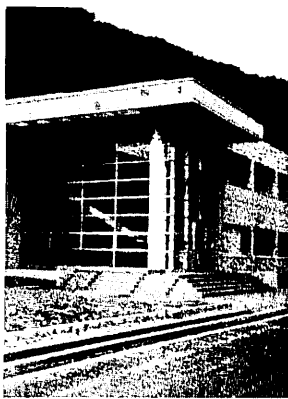
一方、応用機械学課程は設置して日が浅く、現在七年を経過したに過ぎません。しかし、この間において造船業の決定的衰退、予測をはるかに越えた対ドル為替レートなど、極

めて重大な問題が続発し、本邦における機械製造業の技術構造は大きく変わろうとしております。当然の結果として、大学の機械工学教育に対しても、新しい時代の要請に応える改革が早急に望まれております。

### 改正の内容

この様な諸問題を認識の上で、教育の効率化に主眼をおいて、カリキュラムの全面的な見直しを実施しました。そして、一年有余の期間をかけて、機関学科七講座を横断した形で授業科目の整理、統合、内容の刷新を行い、さらに、情報処理、電算機関連科目については新設、充実をはかりました。改正事項を要約すると以下の通りとなります。第一に、従来迄の全開講科目八十九科目を七十一科目と二割減の形としました。これを講座別にまとめて別表に示します。第二に、卒業に必要な単位数を、船用機関学課程は現行の一六六単位から一五五単位に低減しております。一方で、三年次終了時に必要な単位数は、両課程共に現行の一〇〇単位を逆に一二〇単位と厳しい値に改めました。これは、陸船共に高度の技術者が要求される中で、重要科目の習熟密度をより充実させた上で四年次の乗船実習、卒業研究にのぞみ、一層実力をつけた姿で社会へ巣立つ様に配慮した結果です。

以上の改正はこの四月から実施され、その成果が期待されています。



## 機関学科の新実験棟完成

機関学科長年の懸案であった内燃制御実験棟が完成し、昨年十二月に本校への引き渡しが完了した。鉄筋コンクリート地上二階建(千三百四十四平方メートル)の実験棟には、内燃機関、ガスタービン、燃料・潤滑、計測・制御及び振動の実験室があり、六十三年度にかけて内部設備が充実される予定である。

## 編集後記

「水大園だより」の二号をお届けします。昭和六十八年の境にして、大学の就学人口が減少するため、私立大学においても国公立大学においてもその対応に苦慮しています。本校においても昨年からカリキュラムの改正、教育・研究施設の充実を図り、時代に即した大学教育を目指しており、この様な本校の現状を学外へ向けて情報伝達する手段の一つとして、学園だよりは大きな役割を果たすと考えられます。

今後「水大園だより」は広報紙として一層充実する必要があるためには学内各方面の意見を結集して企画編集することが望ましいと考えられ、積極的なご意見をお寄せ下されば幸いです。

講座	授業科目	単位数	講座	授業科目	単位数
船用機関学第一講座	ボイラー	2	船用機関学第二講座	力学I	2
	タービン	2		力学II	2
	原子力工学	2		材料力学	2
	ボイラ	1		材料力学II	1
	タービ	1		材料力学III	4
	ボイラ	1		材料力学IV	2
	タービ	2		材料力学V	2
	ボイラ	2		材料力学VI	2
	タービ	2		材料力学VII	2
	ボイラ	2		材料力学VIII	2
計		17	計		19
内燃機関学講座	内燃機関学I	2	電気電子工学講座	電気電子工学I	2
	内燃機関学II	2		電気電子工学II	2
	内燃機関学III	2		電気電子工学III	2
	内燃機関学IV	2		電気電子工学IV	1
	内燃機関学V	2		電気電子工学V	2
	内燃機関学VI	2		電気電子工学VI	2
	内燃機関学VII	2		電気電子工学VII	2
	内燃機関学VIII	2		電気電子工学VIII	2
	内燃機関学IX	2		電気電子工学IX	2
	内燃機関学X	2		電気電子工学X	2
計		17	計		14
補助機関学講座	船舶工学I	2	計測・制御工学講座	計測・制御工学I	2
	船舶工学II	2		計測・制御工学II	2
	船舶工学III	2		計測・制御工学III	2
	船舶工学IV	2		計測・制御工学IV	2
	船舶工学V	2		計測・制御工学V	2
	船舶工学VI	2		計測・制御工学VI	2
計		23	計		16





水産大学校  
 ⑦759-65  
 下関市吉見永田  
 本町1944  
 発行  
 学園だより  
 編集委員会  
 電話0832(86)5111

# 平成幕開けにあたって

校長 青山恒雄

昭和は終わった。不景気の中から台頭した軍国主義にひきずられ、大東亜共栄圏の虚像に惑わされ一億こぞって火の玉と燃えた十五年戦争。その火が消えた後の空しさと貧しさ。しかし、力強い再生はやがて力を得て今日の隆盛に到達する。学生諸君は幸いにも前半の醜さと苦しみの時を免れた。今日の繁栄が再び虚像と化すことのないよう、昭和前半の歴史を時には顧みて今後の道標を立てて欲しい。

この一年、若者の交通事故が多発している中で、本校では大きい交通事故発生がなかった。先ずは何よりである。今後とも無事故を続けたいものである。とはいえ、八月には増殖学科一年の安井晃君がカッター部の夏季合宿練習中に急死するという痛恨の事故があった。また三月には耕洋丸の松野下洋一事務員を事故で失っている。両君の御冥福をお祈りすると共に、こうした事故の防止に

万全を期するものである。

創立五十周年記念事業の募金活動が四月に開始され一月末までに一億二千万円の拠金を得た。二億五千万円の目標達成に向け、各位の一層の御支援御協力をお願いする。今年度も三月から三ヶ月間JICAの「魚類生理防疫コース」が開講され成功を収めた。下関市と山口県はJICA研修センターの吉見への設置を関係方面に陳情中である。今後、本校で3コース程度の開講が望まれるので各学科の御協力を要請したい。七月には耕洋丸が釜山に寄港し、専攻科及び製造学科学生による釜山水産大学との交歓を行った。こうした事業は状況の許す限り持続したいものである。十月には二科研究棟の建設を開始した。平成二年度には移転により現在の製造と増殖学科の四棟が空くのでその有効利用に楽しみが持てる。

さて、水産業をとり巻く環境は依然として厳しく、体質改善が急がれている。それを受けて水産系の大学・学部は内部再編が一斉になされている。本校のみは形式的な変革を行っていないが、実質的な変革が何れ必要である。教官各位の御理解と協力を要請する次第である。目下どころ、卒業生の就職状況は良好である。前の臨時国会で教員免許法の改正がなされ、本校卒業生にも新しく特別免許の道が開かれた。流れは順調である。この時に、油断せず次の試験への備えを構えたいものである。

然として厳しく、体質改善が急がれている。それを受けて水産系の大学・学部は内部再編が一斉になされている。本校のみは形式的な変革を行っていないが、実質的な変革が何れ必要である。教官各位の御理解と協力を要請する次第である。目下どころ、卒業生の就職状況は良好である。前の臨時国会で教員免許法の改正がなされ、本校卒業生にも新しく特別免許の道が開かれた。流れは順調である。この時に、油断せず次の試験への備えを構えたいものである。



耕洋丸レセプション(釜山)

## 回顧と展望

学生部長 神鳥 昭

今年度は年頭に平成と改元され、感慨も新たに幕が開けられた。学生部は昨年度に引き続き、交通安全、特別講義および広報活動の充実、強化を重点課題として力を注いできたので、これらに焦点を合わせ、この一年を振り返ってみたい。

交通安全 学生(七二一名)の車保有台数は、五〇七台(前年度比一四二%)に達し、急激に増加した。

一方、交通事故の発生件数は、六件(前年度比三八%)に激減した。交通事故の減少は、安全運転に対する自覚の高まりによるところが大きい。今後も車は増え続けることが予想されるので、交通ルールを厳守して、事故防止に一層努力する必要がある。

特別講義 ①漁業の動向について ②これからの遠洋漁業 ③FAOの役割 ④油脂の変敗をテーマに、それぞれ分野について造詣が深い先生方の講演を聴くことができ、大変有意義であった。激動する社会にあつて、専門分野の動向を知り、視野を広げるため、これからも適宜、特別講義を開催し、できるだけ多くの学生が聴講できるよう配慮したい。

広報活動 学内の情報交換はもとより、広く社会に対しても、適宜PRのための情報を提供するなど、機会あるごとに広報に努めた。しかし、広報については、まだ不十分であり、さらに強化の必要性を痛感している。現在、委員会組織による積極的な広報活動が企画されているので、今後

に期待し、ご協力をお願いする。平成元年から土曜閉庁の制度が導入され、毎月第二、第四土曜日が休日になった。この自由時間を活用して、スポーツ、文化、芸術等に親しみ、幅広い教養を身につけられるよう期待する。

# 水大創立五十周年記念事業の意義

今 西 一

水産大学校創立五十周年記念事業委員会が、昭和六十二年八月一日に水産会館で発足した。その後は順次ステップを踏みながら事業組織を整備し、六十三年五月から精力的な募金活動が展開された。そして活動を始めて数カ月後に一億円の大台を超え、初年度の募金の進捗状況は順調に推移したといえる。

しかし本年度は、水産業界が相変わらず厳しい状況にあり、残りの一億円余を目標にした募金活動は、難航を続けることが予想される。このため募金委員は従来の募金計画を再検討し、当面の難局を乗り切る対策を講じ事業の伸展を図る努力をしている。

五十周年記念事業の意義は一、水産大学校の原点である建学の精神をもう一度見直し、それを全国に広めて将来にわたって伝承していく。二、本校の存在を社会にアピールする。三、記念事業を本校のさらなる発展の機会としてとらえ、今後の発展を図る手段とする。四、五十周年を契機として学内の士気を高めること、等に集約される。

本校の伝統は、水産業の厳しい現場の環境に耐え進取の気性に富む人材の育成にあった。また水産庁のマネージメント・レビューに記述され

ているように実験・実習を重視した「現場を熟知させる教育」を特色としていたが、今日の産業界の実情に照らしても十分に適合できると思う。事実、昨今の企業はこのような人材を求めているのである。したがって、この時機に農水省所管の特性を生かし記念事業と並行して「水産大学校」の校名を全国に浸透させることである。

今日まで校長と募金委員は、大手の水産会社、水産関連の企業団体をたびたび訪問して、多数の幹部の方々と面談した。その談話のなかで本校の卒業生は一般に評価が高いこと、そして五十年という長い年月をかけた産業界に根強い基盤が形成されていることが分った。募金活動は、一方において学生の就職分野が広がること、求人数が増えるなどの効果が期待できる。

それはそうとして記念事業の成否は「まず自分達から」という強い意思の統一に掛かっている。関係者の全員が参画する事業が、全国の卒業生に波及する効果は大きく、また企業関係にも伝播し新たな募金効果を生む源泉となるであろう。

現在の募金額は、一億二千五百万円に達した。水産庁の全面的支援も受けている。記念事業はいうまでも

なく、浄財を取扱う経済行為が伴うため、社会的責任を負っている。その背景に思い至ると、三者一体の事業は完遂せねばならない。

## 募 金 状 況

平成元年3月10日現在

	件 数	金額(万円)
個人部		
正会員	1,272	4,656.5
特別会	47	434.0
一般	408	465.5
小計	7	37.0
合計	1,734	5,593.0
企業・団体部		
企業	143	7,016.5
団体	34	151.0
小計	177	7,167.5
合 計	1,911	12,760.5

## 情報処理センターの開設

角南靖夫

本学に情報処理センターが発足して二年を経過しようとしています。このセンターはCOSMO700Ⅲの中型コンピュータを教育、研究、事務処理、業務用として共同利用するために設立されました。センターでは、現在情報処理の入門教育を一年生を対象に行っている。週のうち数日は十二台の端末機が全部学生で使われる時もあり、また学生らは実に楽しそうにコンピュータを使って

います。半年間情報処理を学んだ学生の感想をいくつか紹介します。「半年間の講義では、とてもコンピュータが使いこなせるようにはなれないと思った。授業時間を増やしてほしい。」「短い期間だったので、無理がある所もありましたが、何とかできたという感じでした。情報処理実習は実に楽しいものでした。」「情報処理は、今後絶対必要になると思う。また、一番大切な科目だと思う。」「情報処理の授業を受けた学生は少なくとも、将来的にコンピュータの必要性を感じ、また難しいということをも身をもって体験しているようだ。端末の台数が少ないのが、大きなネックになっているようである。」



# 今年度の進路状況は

新聞紙上などによりご存じかと思いますが、企業等の求人数は、全国規模で大巾に増大されております。

本校におきましても例外でなく、二百九十余件の求人申込がありました。その職種は、水産関係のみならず、ソフト開発関連企業の増加など現在の世相を反映して多種多様化の傾向が見られますし、地方公務員の求人が例年になく増加していますのも、今年度の特色であろうかと思えます。

なお、進路別人員調べ、及び進路先の一部を左及び下表に御紹介いたします。

区 分	進 学			職 業							合 計	
	大 学	研 究 院	専 攻 科	国家公務員	地方公務員	各種団体	水産会社	造船会社	造船船会社	食品会社		その他
漁業(専)	0	0	0	1	0	1	5	1	0	0	2	10
漁業	3	2	12	0	2	2	8	1	4	6	5	45
機関(専)	0	0	0	3	0	0	2	1	2	0	0	8
機関	1	1	13	1	0	0	0	0	14	1	9	40
製造	0	0	0	0	2	1	6	0	0	28	4	41
増殖	3	3	0	0	10	1	11	0	0	0	5	33
研究	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
計	7	6	25	5	14	6	32	3	20	35	26	179



## 地域と連帯

本校滄溟寮はここ数年地域との連帯に力を入れてきている。

元旦の赤間神宮の神事に始まり、四月は海峡ウォーク、五月は海峡まつり等と下関市内の各種イベント等に積極的に協力、参加し好評を得ている。又、昨年は行なわれなかったが、滄溟寮も吉見地区だけでなく下関市内へ繰り出し、魚まつりへ参加したり、シーモール下関で寸劇を演じ喝采をあげたり、GIVE AND TAKEで地域との連帯を強化し水産大学校の名前を外部にアピールしてきている。

## 学生自治会クラブ紹介

### 剣道部

水産大学校剣道部員は、現在、二年生五名と一年生三名です。小人数ではありますが、一人一人目標を持ち、日々充実した稽古をしています。年間予定としては、春休み及び試験休みの合宿、五月に愛媛県松山市で行われる、「中・四国学生剣道大会」を皮切りに大小様々な試合に出場します。

昨年は、「中・四国学生剣道大会」

## 大 学 祭

恒例の水産大学校大学祭(海燕祭)が大学祭実行委員会(委員長・機関学科学科三年生・竹村公雄)主催で、昭和六十三年十月十五日と十六日の両日にわたって開催された。

今年は、初めての試みとして、水産大学校を市民にとってより身近な存在として認識してもらうために、市営二十六号岸壁で耕洋丸をバックにダンスパーティを行い、市民との交流を深めた。

一方学内では、海を撮り続けている写真家・中村征夫氏を招き、「いま 海と人間のあいだで」と題する特別講演が行われた。この中で中村氏は、著書「全・東京湾」を中心にスライドを交えて、開発の進む東京湾の現状、そこに生息する生物、東



京湾を生活の糧として生きている人々について語り、海的环境保全の必要性を強く訴えた。

平成元年度の大学祭実行委員会(委員長・機関学科学科二年生・石井利之)が発足し、準備を始めています。皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

で個人戦の全国大会出場権を獲得するなど、練習の成果がみられました。また、稽古だけでなく、レクリエーションなども盛んに行ない、部員一同クラブ生活を楽しんでいきます。この様に、剣道部は、稽古のみならず、私生活面においても活発に活動しています。

さらに、今年度は、OB会も発足し、顧問教官をはじめ、本校を卒業した諸先輩方の指導を受けて、より良い伝統を築きあげていきたいと思えます。

## 学内の近況

### 〈漁業学科〉

五十九年、六十二年の二度に亘り学則を改正して、大巾なカリキュラムの改編を行った。前者は船員制度の近代化に伴う改正で、この改正で今春水産系大学としては初の運輸士資格を取得した学生が本校から巣立つことになる。後者は新しい漁業体制の中で、目的意識の明確な若者の教育を目指しての改正であった。同じ頃東水大は水産経営学と水産資源学を合せて、資源管理学科を誕生させた。資源管理とは単に漁業資源だけの問題でなく、漁業者の安定した経営と生産物の有効利用と言った一連の過程を示すものに違いないが、この頃のように、漁業が計画生産的な要素を強めてくると、漁業者の安定利益の中に占める漁撈技術の適正な評価がどのようにインプットされているか気になる。漁撈技術は漁具はもちろん、船舶、機器を含めハード面での発展は目覚ましいものがあり、当然コストも膨らむ。しかし漁法や測位、操船技術を含めて、ソフト面での評価が高価な設備費の中に埋没して正確に捉えられていない。そのため適正規模の設備がいまいになり過剰投資に流れがちである。幸い漁業学科は漁業管理、資源から漁船、操船の技術まで幅広いスタツプが揃っている。東水大のような学科再編

をしなくても、巧みなチームワークでそれ以上の成果を揚げ得るものと思うのだが……。

### 〈機関学科〉

本年度卒業生の就職状況は、専攻科学生八名のうち三名は水産庁及び水産系大学の練習船、その他は大洋漁業等の水産関連業界に内定。本科卒業生の内、就職希望者二十五人に対しては、百数十社の求人があった。しかし、海運、水産（漁撈部門）に關してはその厳しさも求人数にあらわれており、専攻科学生の船舶希望が満たされていないのは残念です。そのような社会の要求に應えるため、昨年度よりカリキュラムを大幅に改正しました。

さて機関学科の長年の懸案であった内燃・制御実験棟が昨年度に完成し、本年度にその内部設備が完備され、今後その最新の試験設備で教育の研究に学生の実験に大いに貢献するものと思われる。

また人事面では、運輸士教育にもなう専攻科船舶運輸課程学生のタービン工場実習のため定員が一名増となったので、佐賀大学より中岡教官を迎え、さらに竹内教官も二年間イギリスに留学し所期の目的の成果をおさめて帰国した。今後科内に新風が期待されている。

### 〈製造学科〉

待望の製造・増殖学科共用実験棟

の建設も始まり、平成二年度の完成を目指して工事が進められている。

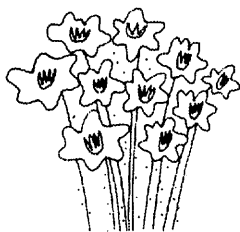
新実験棟では、学生実験室と担当講座の研究室とを同じフロアーに配置した。これにより、実験指導の効率化が図れるとともに、学生諸君にとつても各講座の研究を直接見聞する機会が増大し、専門教科に対する興味と理解を深めることができるようになる。また、各階の廊下にロビーが設置してある。このロビーを休憩場としてだけでなく、両学科の学生ならびに教官の交流の場として活用することによって、学問的視野の拡大に役立てて欲しいものである。一方、本年度製造学科卒業生の就職状況は極めて好調であった。求人企業数は例年の二割増の百八十社に達した。しかし、求人数の増加を手離しに喜ぶ訳にはいかない。円高の進行に伴い食品業界の競争も熾烈化して来た。優秀な人材を確保するため、多数の大学へ求人票を送り、多くの就職希望学生を集めてその中から優秀な人を厳選しようという企業側の魂胆が伺えるからである。やる気と体力だけでは就職戦線で勝ち残れない。常日頃の努力の積み重ねによる実力の養成が肝要である。

### 〈増殖学科〉

キャンパスの桜の花も、ちらほらとほころび始め、春の訪れを感じさせるこの頃ですが、我が増殖学科の近況をお知らせしましょう。

まず、今年の三月に平野先生が定年退官されます。先生は、三十九年間の永きにわたり、本学科の発展のためにご尽力下さいました。先生の永年のご苦勞に対し、衷心より感謝の意を表する次第です。

一方、教育・研究面につきましても、最近とくに、国際化が図られてきました。たとえば、発展途上諸国の水産指導者を対象にした「魚類生理・防疫研修コース」は、今年で三回目を迎えますし、昨年六月からは、中国山東省水産学校の閻愚先生がエビ類の病気の研究のために来られています。また、昨年七月には、伊丹先生がカナダで開かれた国際魚病学会において研究発表されました。昨年十月から十一月には、多部田先生がウナギの初期生活史の研究のため西ドイツへ、そして林先生は、日本の暖水性動物の分化と拡散の研究のためフィリピンへ出張されました。このように、本学科の教育・研究活動は、国際化へ向けて始動しており、今後も国際的レベルで展開されていくと思えます。



〔教養学科〕

楫取(教学)、高本(英語)の両新先生を迎えて、平均年齢が大きく若がりました。楫取先生はイリノイ大学大学院に五年間留学、高本先生は予備校に三年間勤務された紅一点。どちらもわが科にとつては前例のない学歴、職歴の方だけに、それぞれのカリアを生かして新風を吹込んでいただいております。特に高本先生はムクツケキ男性軍団のなかでいろいろと心労も多いことでしょうが、しかし殺伐たるわが科も、若く美しい先生を迎えて少しは潤いが出てくることでしょう。

来る人もあれば去る人もあり、教養学科長の柳瀬先生には三月末に定年退官されます。現在のグランド付近がまだ塩田で、製造学科そばの旧兵舎内に物理教室があったところからのご勤務で在職三十七年。教養学科の重鎮として、また学内の法令、故事来歴に詳しく、しかも記憶力抜群であられることから、「生き字引き」的存在として多面にわたりご活躍、ご指導いただいただけに送る方としても淋しきひとしおです。ご自愛のうえ、ときどきはご来校いただき、カツを入れてもらいたいものです。

〔船 舶〕

耕洋丸は昨秋恒例の遠洋航海に立ち、豪州ニュージーランドを皮切りに南太平洋を反時計方向にひと廻り

し、多大な成果をあげて去る二月一日下関に帰港いたしました。

一方天鷹丸は、年度初めに鮪延縄実習を兼ねて東南アジア方面の調査航海に赴き、六月末に帰関いたしました。夏場には東支那海に出てトロール実習の航海と、日本海を往復して北海道に至る機関実習の航海を済ませ、そして今年度は、境港に十日間停泊して学生を旋網や沖底曳や定置網等の小型操業船に乗船させ、様々な沿岸漁業を直接体験させる為の航海を組み入れ、兎に角矢継ぎ早やの実習航海を重ねました。秋口にはテクノオーシャン一九八八年の協賛として国際海洋・沿岸開発発展に参画し、その間神戸港第四突堤に係留して船内を展示、折返し下関漁港に戻ってからは「さかな祭り」のイベントの一環として船内の一般公開を引き受け、その後飛び込みの要請があつて、NHKの「ひるのプレゼント」に寸刻の出演をして、すっかり広報活動に明け暮れた一連の航海でした。世は正にコマージュナル時代、年一度は母校の宣伝の為に日本列島を巡航するのも必要なことではないのかと不図思った……。

〔事務部〕

新ライフスタイルのすすめ

今次の人事院勧告で、人事院は週休二日制について「国の経済力に国民の生活実感が伴っていない。これは、労働時間が欧米主要国に比べ長

いことにも起因している。」と述べている。また、「時短は国際協調、内需の拡大、豊かな国民生活の実現、新たな価値観に対応したライフスタイルの定着の推進等々にも必要」と強調しています。

筆者のようなゲルピンには「新たなライフスタイル」は皆目浮かんできませんが、理由はともあれ、休みの多いことは皆様にも異論のないところだろうと推測する次第です。

さて、今年一月からの閉庁は、内容的には開庁四週六休を閉庁したことでだけ時短ではありませんが、社会経済に与える影響は大と考えます。本校では守衛、調理、船舶部門を除いて実施されているのは周知のとおりです。この度の閉庁の特徴の一つは、土・日・休日が他の勤務日と振り替え可能となったことです。このことは総労働日数の縮減を図る措置であることは明らかです。振り替えの基本は、出張・学内行事等のための止むを得ない就業に限られますが、できるだけ振り替えないよう上手に業務計画を立て、土・日曜を有意義に使っていただきたいと思えます。(庶務課から)

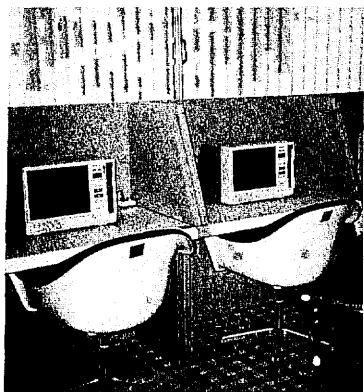
〔図書館〕

視聴覚室利用のおしらせ

近年のハード・ソフトウェアの飛躍的な発達により、これまでの図書・雑誌主体の資料情報に加えて、多様なメディアを駆使した資料利用の

有効性・重要性が指摘されています。本校図書館でも、音響・映像関係の資料的価値の高まりに注目し、視聴覚機器を利用してより効果的な学習・教育ができるよう、整備をすすめています。昨年開設した視聴覚室(20㎡)には、VTR視聴システムとして、個人視聴用ブース四席(VHS方式モニター付再生装置、ナショナル、ヘッドホン付、各一台)を備え付け、利用者がAV資料を使って自学自習できるようになっています。大型モニターテレビ(28インチ、ナショナル、一台)によるグループ視聴もできます。他に、編集用モニター(14インチ、ナショナル、一台)、取材用カメラ(VHS方式、ナショナル、三脚付、一台)を揃え、実験実習等の記録にも利用できます。ビデオソフトの数はまだ僅少ですが、当面、語学学習用のソフトを中心に漸次ふやしていく予定です。

学生・教職員の皆さん、視聴覚室を大いに有効利用してください。



# 進む国際交流

## 本校と国際交流

前田 弘

この「進む国際交流」というテーマで何か書くように頼まれたとき、大いにとまどった。高等教育機関は、生い立ちから国際的な性格を抜きにはその存在が考えられない。本校でもいちはやく海外との研究報告の交換を行い、水産系の学校としては戦後最も早く外航をしている。卒業生は遠洋漁業を中心に幅広く活躍し、以前はその乗組員、現在は外地事業の駐在員の主力になっている。また海外青年協力隊員として、その創設当初より本校の卒業生が参加しており卒業生に対する隊員OBの比率は

全国最高といえる。

このようなことは分り切っているのに、なぜ今更進む国際交流ということが取りあげられるのだろうか。たしかに近頃マスコミでは国際交流がキーワードの一つになっている。

では、人の直接交流―教官の外国出張・留学と留学生の受け入れ―ということだろうか。これらは昭和二十年代から行われている。しかし最近人の交流が盛んになったといえ、まだ十分といえない。常に各学科から一名以上の教官が外国に留学・出張し、少なくとも学生の十人に一人位は留学生であるというのが大学の普通の在り方だろう。このようなことが行われにくい状況を早急に改善しなければならぬ。

## 英国留学体験

竹内 正明

私は、昭和六十一年九月から二年間、海洋環境下におけるワイヤロープの疲労損傷の研究のため、英国のノッチンガム大学に留学しました。ノッチンガムはロンドンの北方二百キロに位置しており、人口三十万のこじんまりとした都市です。広大なキャンパスを有するこの大学には、

学部学生七千名、院生千五百名が在学しています。また、学内には公園、学生寮、多数の教育・研究棟、大病院などが良くレイアウトされており、たいへん美しい大学です。

学部の修学年数は一般に三年間で、日本の教養課程に相当する部分はありません。私が特に感じたことは、我が国の知識吸収型の教育に対して、英国では、既存する知識の吸収だけではなく、与えられた分野又はテーマに対して、自らが調査・研究方法

を考え、まとめ上げることに重点がおかれています。

私が在籍した学科では、研究体制が分業化されており、学科全体で研究設備などが教官によって良く管理され、多大な労力を必要とする実験準備が彼らによって効率良く行なわれています。このような環境が欧米では良い研究結果が生れる一因になっているのかもしれない。最後に、貴重な体験を受ける機会を与えていただいた本校に感謝いたします。

## 私の見た日本と水大



中国山東省水産学校

閔 愚

船がゆっくり港に近づくに従って、私の胸はわくわくしてきました。昨年六月二十日、私は予てより憧れていた日本に参りました。

今回の研修でエビの病気について随分勉強になりました。これも偏に先生方の熱心なご指導のお蔭だといふから感謝しております。先生方には生活の面でも色々ご心配を頂きました。夏に武居先生から頂いた扇風機から風がそよそよ吹いて来る度に感謝の念でいっぱいでした。冬に高橋先生が下さった炬燵に入りますと、体も心も温かくなります。これらすべてがいつまでも忘れられない思い出となるでしょう。

日本は大きな花園のようで、紺碧の水、緑の山、四季折々の花で島々が一段と活力に溢れています。日本人は美を愛し勤勉な民族ですから、益々美しい国になると信じます。

水大は山と海に囲まれ静かで、勉強にはなんとよい所でしょう。先生方は世界の為に熱心に研究されていますし、学生も一生懸命に勉強しています。水大は強健な海燕のように未来へ向って飛び続けるでしょう。水大の一層のご隆盛と先生方のご健勝をお祈り致します。

## 編集室から

▼第三号をお届けいたします。これまで学生部による編集集だったのが、今回から編集委員会で行うこととなりましたが、何分にもわれわれ委員は未経験のものばかりで、ロクロク活字技術についての知識もないうままに、泥縄編集をしたため、不備な点が多々あることをお詫びいたします。それでもなんとか発行のはこびとなりましたのは、年度末でご多忙なかご寄稿いただいた各位のお陰です。厚くお礼申しあげます。

▼第六面の「私の見た日本と水大」の筆者閔愚(やん・ゆう)さんは、増殖学科水族防疫学講座の高橋研究室でエビの細菌性疫病について研究されている中国人女性。日本人顔負けの美しい日本人で、ご投稿いただきました。是非ご一読ください。



水産大学校  
 ☎759-65  
 下関市永田本町  
 2丁目7-1  
 発行 学園だより  
 編集委員会  
 電話0832(86)5111

# 水産大学校の現状と未来 私の提言

## 校長として思うこと

校長 青山恒雄

本校運営上の苦しさは、大学設置基準に従いながら、海事教育については運輸省の規定の下で、しかも農水省所管としての特性を求めている点にある。一般的にいつて、東京水産大学にならうというイメージな道に迷い込んで来たようである。例えば学年暦もカリキュラムも国立大学のコピーとなり特性の出しようがない。無難な線、常識的な方向というものを考える時、国立大学の例に従うというのが一番楽な道であつたらうが、大学校自体が国立大学のコピーになりにかねない。学科、講座制についてもコピーで発足したが、国立

大学側が変質して本校のみが取り残された。特性発揮のためには、制度や体制面の革新も必要であろう。乗船実習、実習場合宿、寮生活、部活動等は、心技体の調和ある育成に極めて有効である。本校の教育環境と自然環境はこのために非常に恵まれている。今日では、寮生活や部活動になじめない新入生も幾分あるようであるが、本校の特性を出す重要な一面であるから、学生募集時から強調しておくべきであろう。最後に情報収集について一言。今日は情報氾濫の時代であり、それが逆に欲しい情報の完備を妨げるといふ事態を来している。機関別に分担してそれぞれ重点項目の情報整備を行う方向に進むとみられるが、本校では、例えば東シナ海・黄海に関するもの、捕鯨に関するもの、フグや

ウナギに関するもの等は最小限完備したいものである。

## 学園にプラスの遺産を

藤石昭生

海洋国は海洋生物資源管理について新たな展開をみせ、自国の二〇〇カイリECZ内のみならず公海の漁業規制を確立すべく共同歩調をとりはじめている。日本の水産業界はこの動向とは無縁ではない。国内に眼を転じると、教育界には逆ピラミッド型人口構成が高校生に達し生徒定員の確保が論議され、産業界では若年労働力の不足が深刻である。こうした内外の動向から十年後の水産業の姿が想定できよう。本校がその教育活動の根幹を「海＝フィールド」に置いているだけに各人が水産関連産業の将来像をもたない限り、今後の教育改革案も机上の空論に終る。現実に大学教育も産業界の盛衰に左右されており、セクショナリズムと保身主義が先行し小手先の改革に甘んじている間に、漁業界の労働人口は急減し、これが入学志願者の減少と云う悪循環を生む。この基礎認識に立つて、私の描く将来像の一端を述べ、学園に「正の遺産」を残す改革に望む態度を示そう。

(一) 二〇〇カイリ内余剰資源配分時代

はすでに終わった。大臣指定漁業十六業種中、七業種が稼動中にすぎず、沖合と遠洋漁業の就業者数の減少率は七%の高率である。業界の地殻変動の間に、米国スーパーボールが北洋に進出した。南太平洋フォールム諸国の公海漁業規制は漁業外交の枠を越えている。東欧圏では妖怪が息を吹きかえしたが、別の妖怪が日本近海や太平洋に現われた場合に要求される資質は基礎科学を水産分野へ応用させる能力と、国際情報を入手し的確な情勢判断のできる語学力である。

有能な教官採用と外国人教師定員の確保を検討すべし。  
 (二) 沿岸の高生産性海域に活路がある。これに対応した教育組織と教科内容の厳選。他大学で実施された改革の短所だけを殊更強調するのは負け犬である。最初に五学科、学科目―講座制ありきでは改革案もでてこない。近い将来、外国人労働力の移入論議が沿岸漁業に持ち上がり、沿岸資源の国際的分業形態による利用すら討議対象となろう。外国の諸大学の日本上陸も増加し教育改革と無縁の大学が淘汰されよう。現組織、現カリキュラムの肯定ではなく、学園に改革をテーマにした百花齊放なくば本校の未来は暗い。若い教官陣の新鮮で大胆な論議を期待する。吉見セントロイズムの蔓延が学園を崩壊させるのは確かであろう。

# 「マリンエンジニアリングから マリンテクノロジーへ」

大崎 榮喜

最近、学会などにおいて、人工衛星による漁海況予報、漁獲法のシステム化、海洋牧場など水産の分野において高度の工学技術を導入した課題が取り上げられることが多くなっている。このことは、従来、多くの工学に従事する者にとつて、水産はずいぶんかけ離れた分野という印象をもっていたことを反省する機会を与えてくれた。

将来、日本人の重要な蛋白質資源を二百海里領海内で必要量を確保するにはこれからの水産業は、海洋・資源・生物・環境はもとより、土木・船舶・機械・制御・電子・エネルギー工学などの分野を包括したトータルシステムとして考え、資源の管理と経済性を考慮して生産性の向上をはかる必要がある。

この時代の流れに対応するため水産庁は、水産土木・漁船・漁業の分野に工学技術を効果的に導入するために国立研究機関として、昭和五十四年に水産工学研究所を設立した。その研究成果は水産業のいろいろな面で活用されている。今後、水産で使用する機械・機器は、より精密になり耐腐食性、気密・水密性の間

題、また高圧下での遠方監視や測定、遠隔操作など工学技術の立場から考えても大気中に比べて厳しい環境条件が課せられる。これらを解決するには、海洋・機械・制御・電子工学などの工学分野を総合的かつ有機的な観点から考えたマリンテクノロジーの発想が不可欠である。

従来から機関学科においては、船用機関を主な対象としたマリンエンジニアリングの研究・教育が行われてきた。しかしながら、これからの機関学科が社会の要請にこたえるためには、これまでのマリンエンジニアリングを主体とした研究・教育体制から一歩前進し、もう一つの大きな柱として、水産工学における広い意味での機械工学分野の研究・教育の拠点として飛躍する必要があると考える。そのためには、マリンエンジニアリングからマリンテクノロジーへの指向をより鮮明に打ち出した研究・教育体制を確立し、水産工学研究所などの研究機関や産業界と交流を深めるとともに共同研究を積極的に推進する必要性を痛感する。

## 研究の推進

原田 勝彦

高等教育機関において、教育と研究は密接な不可分の関係にある。研

究を通して教育が可能であると確信しているからである。後者の研究という問題点に焦点をあててみたい。

二十数年前までは、一人分の研究費で冷蔵庫一台さえも購入できなかったが、今ではそれが数台でも購入できる。しかも、文部省系の高等教育機関の教員単価とほぼ同額である。研究は研究費のみに必ずしも依存するとは考え難い。過去十か年間の研究業績数をみても研究費と無関係であることも一つの証左であるといえよう。確かに研究費の枠がある限り、研究の推進を阻害することは否めない。いつの時代でも制限枠内で研究を主体にして適応して行くことが必要と考える。欧州のある研究所では研究の推進に必要な文献の入手料並びに複写料さえ受益者負担であった。

研究費、実験装置と研究推進の三者は密接である。研究推進→実験装置→研究費の流れも一つの側面であり、逆の流れももう一つの側面である。もちろん、両側面においてフィードバックが必要である。前者の流れは、研究者自身の主体性つまり姿勢が柱となっている。この立場が最適と考える。

このためには、まず関連する研究領域に対して、はば広い且つ高感度の触角が必要である。種々の研究会に無理をして積極的に参加して、研究課題のかかえる近未来の展望を予見する必要がある。これらを通して、現状況下を考慮して可能な研究へのアプローチをしなければならぬ。国際間の研究会では、文献交換を含めて多くの研究者と意見交換ができる波及的效果が期待できる。次に研究には願望あるいは大きな夢があるので、共同研究者であれ農林水産技術会議、科学技術庁や民間の財団に積極的に応募する必要がある。特に農林水産技術会議は研究推進にかかわる多くのメニューを持っているので、積極的に応募して実績をつみかさねる努力が必要である。私の研究生活を通して、近未来の研究推進のため、私自身を鼓舞することを含めて、わずかな提言をさせていただきます。

最後に、関連資料を提供していただいた方々に感謝を申し上げます。

## 水産大学の現状と将来について

松田 州司

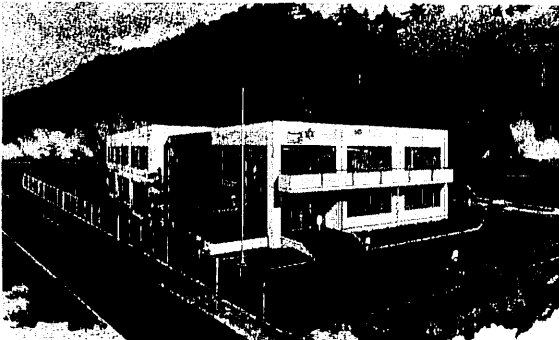
現在、本校でかかえている問題は色々あること、周知のとおりである。

- 一、学生への学士号授与及び高等学
- 一、航海訓練所練習船への乗船実習
- 一、本校教員への教育公務員特例法の適用が無いことに伴う勤務条件等の文部教官との格差。



一、教授会規程、教官人事諸規程の整備が急務であること。  
 一、各種予算が少額であることから  
 の諸問題。  
 等々多くの事項があるが、これら問題解決のため多くの諸先輩方もいろいろな立場や職務の上で努力されて来たことと思う。また一方これらの問題解決のため、協議・検討の中で「水産庁は本校に何を期待しているのか、本校の運営・改革等について水産庁の姿勢はどうなのか、etc.」ということが本校職員サイドから問題提起されるが、上部機関、管理機関から運営あるいは改革について、ああしなさい、こうしなさいと押し付けられてハイ・ハイとそのレールの上に乗ると思えない。その主体性は本校にあり、本校職員一体となって水産庁及び農林水産省幹部に「水産大学校はこうあるべきだ」と言える基礎がためをしていくべきと思う。基礎がためは、教官も事務官も一人一人の立場や職務において責任を持って真摯に取り組み協議検討をし、その取りまとめを行うことが肝要である（学校内での協議・検討においては他人の意見について批評はしても批難はせずを原則として）。そして一日でも早く本校としての基礎がためが出来たら、水産庁幹部に「水産大学校はこうあるべきだ」という意見を聞いてもらう機会を作れると思う。例えば、卒業式・入学

式時に来校する人、今年で言えば五十周年記念式典の時とか、機会は多々あると思う。水産庁幹部は立場も違うし本校の職員程には内容を把握していないので自ずから考えも違うことから、最初から議論をするという構えでなく、先ず当方の言い分を聞いてもらうということから進めて行けないものかと考えるが、言うは易く行いがたしである。それは校長がやるべき事柄であるとか言っていないで、創立五十周年を迎えた学校であり、また、一方平成四年をピークとして大学進学者数が減少すること等もあり、この機会に一步一歩見直し検討も含め基礎がためをすることが大切であると思う。



水産大学校創立五十周年記念国際交流会館完成予想図  
 (平成 2 年 10 月完成予定)

## 平成二年度 入試について

平成二年度の入試は、共通一次試験が大学入試センター試験と衣替えをし、加えて私学の参加もあつて志願者は過去最高となり、国公立離れに一応の歯止めがかかった感じがします。  
 本校は、入試センター試験には参加していませんが、志願者数は大体安定しています。とはいえ、一九九二年をピークに十八才人口が減少するので、その対策が大切です。  
 本校の入学者選抜方法は一般入試、推薦入試及び帰国子女特別入試の三通りで実施します。これ以外に外国人（私費留学生）の受け入れとして、外国人特別入学制度を設けています。本年度は一名の志願者がありました。  
 推薦入試は、水産高校出身者のみを対象とするA制度と、特定の高校出身者に限定しないB制度の二つに分れ、既に実施し無事終了しました。  
 一般入試は、二月十六日に下関（本校）と東京（東海大学代々木校舎）の二か所で行われます。志願者数等は次表のとおりですが、最近よく云われていますように目的意識をしっかりと持ち、やる気充分の気概を持って志願してもらいたいものです。

### 推薦・一般入試の志願者数等

( ) は女子

学科	推 薦 入 試						一般入試		試験会場	
	A		B		計		志願者数	計	下関	東京
	志願	合格	志願	合格	志願	合格				
漁業	6	5	19	10	25	15	92	117	69	48
機関	5	4	16(1)	10	21(1)	14	130(2)	151(3)	102	49
製造	3	2	18(2)	12(1)	21(2)	14(1)	171(2)	192(3)	145	47
増殖			23(2)	6	23(2)	6	386(2)	409(2)	236	173
計	14	11	76(5)	38(1)	90(5)	49(1)	779(4)	869(4)	552	317

## 「水産大を代表する 伝統あるクラブ」

ラグビー部

かつては中国代表の座を守り、九州・下関地区リーグの覇者として永きに渡り君臨してきた。現在では、私立大学の台頭によって、かつての二冠を手中にはしていないが、昨年度もともに下関リーグ戦で全勝優勝し、再び「目指せ端穂！全国大学地区対抗出場へ」を合言葉に日々練習に励んでいる。

# 大学祭ノ祭元年

## 大学祭実行委員長

平成元年十月十四・十五日の両日、学内外からの多大なる御協力のもとに本校大学祭を無事、開催することができた。

平成元年度の大学祭を開催するにあたって、もつと下関市民の人々に大学祭をアピールしようということで、市内の六大学の学祭実行委員会、十月八日に下関駅構内においてチャリティバザーを行ったり、本校では八月の豊魚祭に学祭実行委員会の名で模擬店を出したり、大学祭当日の朝刊に折り込み広告を入れるなどの試みを行った。そのかいあって、**「祭元年」**というテーマにふさわしく、多数の他大学の学生や地域住民の参加があり、大変にぎやかなものとなった。

平成二年度の大学祭実行委員会も、委員長・安食啓二君（機関学科二年生）のもとに活動を始めている。本年度もどうか皆様方の絶大なる御支援、御指導をよろしくお願い致します。

## 平成元年度卒業生進路状況

本年度の求人件数は、昨年度に比較し全体で二〇〇％の増加率を示し、合計で約三百五十件となりました。業種内容では、水産系企業が増加し、本校の特色に対応したものと

えます。なお、進路別人員調べ、進路先の一部を紹介します。

区 分	進 学			就 職					合 計			
	大 学 院	研 究 科	専 攻 科	国家公務員	地方公務員	各種団体	水産会社	船舶会社		造船造船会社	その他	
漁業(%)	0	1	0	1	0	1	5	1	0	0	3	12
漁 業	1	2	11	0	4	1	15	0	1	5	8	48
機 関(%)	0	0	0	1	0	1	2	2	2	0	3	11
機 関	0	0	6	0	2	1	0	0	17	0	6	32
製 造	0	0	0	2	1	0	10	0	0	16	8	37
増 殖	5	0	0	2	6	0	8	0	0	2	7	30
研 究	1	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	4
計	7	3	17	7	13	4	42	3	20	23	35	174

## 「春合宿にかける」

### ヨット部

ヨット部の一年は春合宿から。水産大から始まって、九大・徳山大と所・相手を変えて一カ月間の合同合宿をしていく。春先は、風が強く、練習には絶対のコンディションで、時には風にあおられて転覆することもある。他大学との交流を通して新しい技術・練習方法を体得し、チームワークでもって、さあ、頑張ろうと意気込んでいる。

## 学内の近況

### 〈教養学科〉

三十七年間在職された柳瀬先生は昨春静かに本校を去られた。代わって京都から新進気鋭の伊沢瑞夫先生が着任され、精力的に物理実験の指導に当たっておられる。天文学を専攻されておられ、思いは遠く宇宙の彼方にあるのだから、日ごろの先生は気さくで明るく、ごく身近な地球人である。

昨年七月文部大臣の諮問機関である大学教育部会が大学教育改革についての審議報告を明らかにした。その中の主要事項が一般教育（外国語

教育、保健体育教育を含む）や大学設置基準の見直しである。文部系大学の多くが既に教養課程の改革・改組に取り組んでいると聞く。いずれ近いうちに当学科のカリキュラムも新しい大学設置基準に則して、大巾な変更をせまられることになるだろう。

四週六休制が昨年より実施されるようになり、他の大学に先駆けて土曜日が隔週閉庁となった。その為に授業時間割が窮屈になり、並列開講とか隔週土曜二〇〇分連続授業といった形態をとらざるを得なくなった。政府は更に労働時間短縮を推進しようとしており、いずれ完全土曜閉庁になると予想される。この点からも改革が求められている。

その他、平成五年度からの十八才人口の激減に対する備えも怠ってはならないし、情報化・国際化の今日の状況からの要請もある。教養学科教官室の並ぶ三学科共同棟の二階は今のところ静かで平穏だが、嵐の前の静けさに思えてならない。

### 〈漁業学科〉

昨年の広瀬先生に引き続き、今年三月には三栖先生が定年退官される。代って、今年度は漁具学講座へ永松先生を、また新学期には漁場学講座に新進気鋭の先生を迎えることになっている。新風を大いに期待したい。

一方、国際交流も盛んで、昨年七月今西先生が漁業訓練センターの計画打合せにペルーへ出張。八月には前田先生がフィジーへ講演及び視察、十一月から船員学校のカリキュラム指導にウルグアイを訪問された。更に、今年三月には浜野先生が浮魚資源調査の設計指導でトルコへ出張の予定である。

また、海外からは、モロッコの漁業高等技術学院より、昨年九月には漁具学講座へ、今年三月には航海学講座へと、特別研修員をそれぞれ迎え入れる。

さて、学生の就職状況は、日本、大洋等大手水産会社をはじめ漁業資材・機械及び食品会社など約一六〇社からの求人があり、今年度は例年になく各企業の出足が早く、希望学生の大半が六月末には内定した。地方公務員の合格者も四名あり、まずまずの成績であった。

最近の水産業界では何れの企業も海外活動が重視され、これに即応できる人材を求めているので、英会話をマスターすることが肝要である。

### 〈機関学科〉

学科長を二期勤められた西野正見教授が前年度末で退官され、新学科長に竹平昭暢教授が就任しました。同時に西野教授の後任人事として、計測・自動制御講座に相良慎一助手

を迎えました。九工大の修士課程を現役で修了のフレッシュマンで、今後の活躍が期待されています。

六月前後に本格化した企業等からの求人は、特に機関学科と関連の深い造船・造船業において、一方的な売り市場を呈して就職状況も好調です。ただ、企業の人材獲得競争はいささか異常といえる程の過熱状態にあり、これにつられて学生も右往左往するばかりで落着かず、問題が提起されています。

日常から学生の学会活動を推進してきておりますが、本年は日本機械学会の卒研発表会へ六名(四論文)が参加しました。過日の近畿大での中国四国支部発表会では、一名は座長も勤め、各人の一年間の研究成果を学外に発表しております。

最後に、蒸気原動機講座の中島明義教授が、本年度末で定年退官されます。先生は昭和五十五年本校に着任されて以来、特に学生のタービン船実習にかかわる諸問題について、心血をそそいで対処されて来ましたが、最終講義「船員教育四十年を振り返つて」には学生職員七十名余りが聴講し、深い感銘を受けました。今後のご健勝をお祈りします。

### 〈製造学科〉

製造学科から眺めると、新実験棟工事の進捗状況がよくわかる。酒は

古き皮袋にと言うが、教育・研究の分野においては、設備の整った新しい環境ほどよい。一日も早い完成が待たれるこの頃である。

本学科では、本年度一杯で、藤澤先生(40年入省)、越川先生(23年入省)、および中野先生(26年入省)の三教官が定年退官される。永年にわたり水大発展のために注がれたご労苦に対し、改めて敬意を表すると同時に今後のご発展を祈る次第である。

それに伴って、食品化学講座助教授、食品製造工学講座助手、および水産製造学講座助手として新任教官の赴任も予定されている。ペテラン三教官の抜けられた穴を埋めて、さらに余りあるものになればと念願している。

平成元年度卒業生の就職状況は極めて好調であった。求人申込企業数は百九十社を超えた。しかし、この現象は好景気に支えられて起こつたに過ぎないと思われる。卒業生の真価は入社後、何をどれだけするかで決まるものである。好不況に拘らず、水大卒業生が欲しいと、企業側に言わせるだけの実力と闘志を学生諸君は備えて欲しい。

### 〈増殖学科〉

増殖学科では昨年、平野先生の定年退官につづいて四月下旬には早山先生を失いました。誠に残念でなり

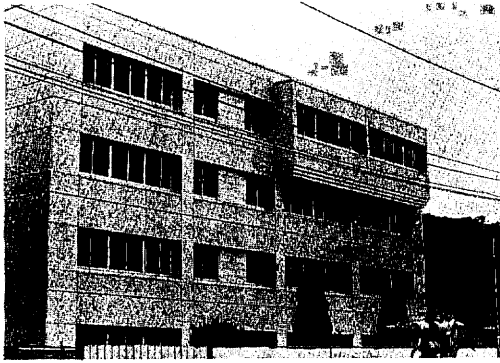
ません。さらに八月一日付で多田先生が長崎大学に向向されました。平野先生の後任として昨年四月に新潟県内水面試験場から柿元皓先生を迎えました。先生は魚礁関係の権威者で、沿岸漁場開発論、水産学概論などを担当されます。

水族防疫学講座に一昨年からはエビ類の病気について研究にいられている関愚さんは、現在最後のまとめをされており、六月二十日頃中国に帰られる予定です。長い間ご苦労さまでした。ご研究の一層の発展をお祈りします。

国際協力事業団の要請による「魚類生理・防疫研修コース」は、今年で四回目を迎え、コロンビア、インドネシア、タイ、マレーシア、フィリピン、シリアの各国から一名ずつ(うち女性一名)参加し、三月下旬から六月下旬まで開設されます。

### 〈船舶〉

耕洋丸の運航は新入生の体験航海から始まり、(一)日本産ウナギの産卵場調査、(二)Z3海洋観測実習、(三)日本海大陸棚斜面マイクロネクトン分布調査、(四)S3漁獲物処理実習、(五)遠洋航海、(六)冬季サンマ産卵調査等の航海を行いました。遠航では前年度に引続いてエル・ニーニョに代表される赤道海域の海洋変動と大気の影響を解明するための国際共同調査



完成を待たれる共用実験棟

(TOGA計画)の一環で、科学技術庁が中心の共同調査に協力し西経160度線で赤道横断観測をしました。天鷹丸はG・Kの専攻科生を乗せ、四月から六月にかけて東南アジア・インド洋方面への実習航海から始まり、七月から十月にかけてはK3、G3、G2と航海、運用、機関、漁業実習と失継ばやの航海が続きます。この外に地方自治体からのイベント参加依頼、研究所からの調査依頼等のため、両船とも結構多忙な一年を送っております。練習船の航海内容も免許取得中心の走る航海から研究調査の組込まれた航海へと変わっております。他大学でも練習船の運航が真剣に論じられております。我々も連絡を密にして情報を逃さないよう真剣に取組む必要があると思えます。

### 〈事務部〉

今号は平成二年度の水産大学校の歳出予算関係について簡単にお知らせします。平成二年度の大学校運営費の総額は一、九二五、七三八千円が認められました。この額は対前年度に比べ七四、一三〇千円、率にして四%の増となります。水産庁全体のアップ率が〇・五%ということですのでかなりの成果があったと申しあげてよいと思えます。その中で特筆されるのは教官研修旅費が新しく細目の中で認められたことと情報処理関係の定員が一名認められたことです。次に施設整備費についてお知らせします。本校の施設整備については昭和五十八年度からの長期整備計画により年々整備拡充されているところと、現在は皆様御承知のとおり昭和六十三年度から製造・増殖学科共用実験棟の整備中であり、当初三ヶ年計画で予算要求を行ってまいりましたが、予算編成技術上の問題から、四ヶ年計画となり額として三九一、六二六千円が認められました。平成二年度において建物はほぼ完成しますが実験台と冷暖房設備の一部と外構の整備が平成三年度になりま。新しい建物への移転時期は決まっています。新しい建物へ次第関係学科の方々に協議しますのでその折には御協力下さるようお願いいたします。

### 〈図書館〉

正門から真正面に見える小高い丘の上に図書館があります。標本展示室はこの一階にあります。展示室に入ると、標本瓶には魚やエビ等が、ケースの中には海獣、貝、航海機器やエンジン、網その他多くの標本が黙って並んでいます。しかし、よく見、耳を澄ますと、船は大海原を走り人は魚を捕り、魚は海で泳ぎ回っている様子が思い浮んできます。私達は本を読んだり、卒論や研究を行う中でふと疑問に感じることがありますが、そんな時実物(標本)と接することによって疑問が解消されたり、あるいは新たな発見をすることがあります。そこに標本の価値があるわけで、本校のように図書館覧室の階下が標本展示室というのはとても重要なことだと思えます。

現在三、六八〇点の標本(一一、七六五個体)が所蔵され、教育・研究用にあるいは市民の啓蒙用としても広く活用されています。最近ではたとえば下関市制100周年記念行事、さかな祭の一環としても利用されています。標本展示室はいつも開いており、誰でも見学できます。学校を訪ねた方がありましたら気軽に誘ってください。標本共々心よりご来室をお待ち申し上げます。

### 編集室から

今回は「水産大学校の現状と未来」と言うテーマに焦点を当ててみました。ご承知のように、日頃考えておられることをこの機会に述べていただきたく、各位からのご意見を広く募集いたしました。が、残念ながら一件もありませんでした。そこで今回ご寄稿いただいた各位にお願いしたところ、快くご了解いただきました。ここに第四号の発行ができました。有難うございました。

前回のテーマ「進む国際交流」と関連しますが、国際化(国際人化)を進める上で基本的に必要な条件は、外国語の習得ではなく、自分のアイデンティティを明確にして、相手を理解する態度を持つことだと思えます。これは受動的ではなく、能動的な性格のものであり、従来からの日本人の精神と合い反するものです。これから二十一世紀に向かって国際社会の中の日本を担う若者を育てる使命を持つ大学であること、そして、まずそれを実践して指導する立場にあることを考えるとき、本校の将来にたいへん不安を感じる次第です。





水産大学校  
 ☎759-65  
 下関市永田本町  
 2丁目7-1  
 発行 学園だより会  
 編集委 員会  
 電話 0832 (86) 5111

# 水産大学校の将来について

校長 青山恒雄



創立五十周年記念行事を無事終了したことを皆さんと共に改めて喜びたい。この時期に二・五億円の募金目標を達成し、立派な記念会館が献納され、五十年史の刊行も見られた。記念式典には京谷水産庁長官始め四六〇名の来賓、卒業生の参加を得た。また釜山水産大学校からは柳総長を始め教官、同窓生、学生等十余名の出席があった。校長六年の任期の終わりにこういふ輝かしい式典に臨むことができた巡り合わせを感謝している。祝賀会が行われている最中に、一方、校長室において土田漁政課長、水産大学校幹部職員立会のもとに韓国籍の釜山二、三期卒業生五名に對

して卒業証書授与式を行った。この人たちに対しては戦後の混乱のため卒業証書の授与がなされていなかったのである。代表で証書を受領された王太殿氏（釜山製造二期）は、「これで私達の戦後が終わった」と涙して喜んで下さった。この授与式は始め記念式典の席上で計画していたが、列席した韓国学生諸君への配慮から別席に変更した。多少でも誤解を招くようなことは避けるべきだと判断したからである。釜山水産大学との教育研究交流協定の締結も行われ、とにかくめでたく式典は終了した。本校半世紀の波乱の時代を終えたわけであるが、しかしそのうねりは二十一世紀に向けて、尚残ることが予想される。幾多の苦難を常に克服してきた本校である。今後とも試練の打破をはずみとして益々発展を続けるものと確信している。

学園を去るに当り、水産系学校教育機関が直面している改組問題を取り上げて、本校としての取り組みのあり方について考えてみたい。

今日、農学系の学部の大部分で改組が行われている。改組は大学科制、大講座制への移行の形で行われている。これらの改組に伴い学科や講座名も改められ、「農」や「漁」の文字が組織名から消える結果となった。その背景としては、科学の進歩や社会情勢の変化に対応した教育・研究組織への変革が要請されていること、「農」「漁」の不評の中で優秀な学生獲得のためイメージアップを計る必要があったことなどが考えられる。

臨教審や大学審の答申にも見られるように、教育の固定性、画一性からの脱却、社会需要や科学の進歩への即応性が要求されているが、そのためには小講座制・小学科制は確かに流動性に欠けるのである。また、時代に合ったカリキュラムの変更が要請されるが、カリキュラムの寿命と教官の寿命が整合しない。とにかく小講座制では動きがとれないのである。

文部省は大講座制への移行をすすめるために、初期には改編に伴う定員増や振替昇格を認めてきた。イメージチェンジについては、中身不変のまま名称のみ変えたのでは羊頭狗肉になりかねないが、名は体を表すということもあって、多少の改革には連るかもしれない。少なくとも、改革の意志を示すことにはなる。

マスコミの宣伝もあって、「農」「漁」は不当に受験生に不人気なのである。いくら本質を唱えても受験生には判るまい。情報・宣伝時代という世の流れに従うほかあるまい、というわけのようだ。

本校はただ一人旧い組織名称を守っている。それが最良と思っっているわけではないが、文部系大学の改組が余りにも激しく、その功罪の見極めが出来ていないので、ここは慎重に構えて下手な動きを控えて来たのである。しかし学科や講座の区分が、学問や産業の実態と乖離しかけていたり、教育推進に適當でない部分が生じているのも事実であるから、近い将来真面目な検討が必要である。イメージチェンジによる学生集めという末梢の事柄ではなく、水産業に資するという設置目的からみて、より適切な組織への改変を行うことは義務であろう。現状やしきりを守ることが重要な場合もあるが、そのままでは逆に怠慢のそしりを受けることになる場合もあることを心すべきであろう。

組織については、私は何もせずに行くことになった。新しい校長のもとで慎重な検討を進められることを希望する。と同時に、文部省の枠にとられずに教育できることからどんなメリットを生み出せるか、そのメリットを活かしているか反省してみたいものである。

## 五十周年記念事業と国際産学交流について

水産大学校後援会評議員会長

今西 一

昨年一年は、創立五十周年記念式典という大きな行事があり、水産大学校にとって誠に忙しい年であった。そのための準備が、ここ数年来行われてきたが、一昨年から昨年にかけては、式典の日どりがきまって切迫したものになったため関係者は極めて忙しい思いをした。

それにしても、記念事業関係者の非常な努力によって、募金額は予想をはるかに超える二億九千万円余に達し、立派な会館もキャンパスに建設された。

式典は、いかにも秋らしい澄みきった青空に恵まれた'90年10月27日、本校講堂において会館献納式、記念式典、釜山水産大学校との学術、教育交流の調印式が行われた。これも式典関係者の努力によって全国から七〇〇余名が一堂に会し盛会裡に挙行されたのである。

あと五十年史の刊行が事情があつておこなわれているが、編集部会長および編集小委員の方々の精力的活動によって、おくれをとりもどすべく懸命の努力をされている。三月上旬に発刊されると聞き及んでいるが、内

容が充実した立派な記念史が刊行されるであろう。

五十周年事業は本校にとって難事業であったが、私は募金活動を通して国内の産業界の動向、実情が手にとる如くわかった。好景気の業種もあれば、不況のどん底にあえいでいる業種もある、水産業界も厳しい状況にあるとはいえ、好況の企業もあり、生産部門をもつ大手、中小漁業会社は、今後どのように伸展させるか真剣に模索している。このような状況下で、本校五十周年事業にご協力いただいた企業団体には心から感謝せねばならない。

いうまでもなく民間企業は質の高い活力のある人材を求めていて、人材供給源としての本校に対する期待は大きい。この評価があればこそ募金に協力されたともいえるのである。だが、これからの大学を考えると、その評価は単に国内の大学として良いか悪いかだけではなく、国際的な評価に耐え得る大学でなければならぬ。つまり、国際化が進む中で、国際的な大学として立派な大学であるということが問題になると思つて

いる。本校では、釜山水大との学術、教育交流を推進することを手始めとして、済州大、大連水産学院等との交流も可能となろう。

そのためには、当然国際（産学）交流援助資金が必要であり、その基

盤となる本校後援会の財政構造をより安定的なものにして、より強化することが喫緊の課題である。

この課題解決に当たっては、すでに実現可能な援助資金導入の試案ができています。三月の評議員会でご理解を得ると同時に理事会の承認を取りつけ、本年度から直ちに実施し得るよう努力したい。本校のさらなる発展のため、教官各位の活躍を期待したい。

### 初心者マーク

事務部長 松田 州司

私は五十ウンオにして下関で自動車運転免許を取得し初心者マークを燦然と輝かせマイカーで通勤しているオッサンです。

マイカー通勤当初は七曲りを四十分kmそこそこ走れず、一九一号線から本校への入口の細い道で対面から車が来ると少しも前に進むことができなかったりで初心者マークをつけている間は「運転手の皆さん、私は初心者です今しばらくの間よろしく頼みますよ!」という気持で運転していましたが本校の学生諸君や教職員初め多くの運転手の方々の譲り合いの精神と、初心者保護の温かい気持ちに助けられました。しかしまだ他人様に「どうぞ乗りませんか?」と気軽に声をかけられる程には至っていません。本校には乗用車の他に二

台の貨物乗用車がありますが、これらの車を運転させる、又は運転できる者は運転免許取得後二年を経過した者、という規則がありますが、これらから考えますと他人様を気軽に乗せることができるのは熟練者になつてから!と考えますが、我が校の学園内では数少ない初心者マーク運転手として皆様から受けた御親切のお礼は交通規則を守りマナーを重ずる運転者になることと心掛けています。

学生諸君に限らず教職員をも含め我が学園内からは交通事故当事者を出さないように努めましょう。

### コンピュータに親しもう

瓜倉 茂

数年前のカメラのヒット商品にミノルタのα7000がある。これはそれまでのパカチオンカメラ方式、つまりシャッターボタンを押すだけで写真がとれるという簡単なカメラ操作を、一眼レフカメラにまで持ち込んだ画期的なものであった。実際、カメラに不慣れた人にとっては、シャッター速度や絞りなどの決定は煩わしいものである。このα7000は電子技術の結晶として生まれ、マイクプロセッサ（確か三個）を搭載し、これらの煩わしい操作をすべて自動化し、電源スイッチを入れ、シャッターボタンを押すだけという

ものである。もはや電気製品といつてもよい。またいくつかの小さな操作ボタンを押してモードを変えることもでき、その様子は液晶パネルに表示される。目的は違うが、どこかパソコンと似ているではないか。小さな操作ボタンはキーボード、液晶パネルはCRTディスプレイである。カメラに比べコンピュータははるかに多くの機能を持っており、その操作には多くのコマンドを覚えて使わなければならない。これはカメラのシャッター速度や絞りを決めるといふ煩わしさ以上のものである。また同じ内容の操作をするにしてもメーカーによりコマンド名が異なったりもする。ゲーム専用機は別として、現在ではまだまだバカチョンコンピュータの出現は望めない。

初心者でも親しみやすいというコンピュータがある。アメリカのAPPLE社のマッキントッシュである。ここではコマンドはすべてメニューに用意されていて、キーボードを使うことなくコマンドを与えることができる。しかしこれとてメニューを理解することなく使うことは難しく、逆にコマンドが与え易いからといって滅多やたらに使えば、大事はファイルを壊すことにもなりかねない。いづれにしても、コンピュータは初心者にとって敷居が高い代物である。しかしただ一つの救いは、我々とコンピュータ本体との仲介役をし

てくれるオペレーティングシステム(OS)はどのメーカーでも大体同じような機能を持つていてることである。これは汎用の大型コンピュータからパソコンにいたるまでいえることである。たとえばプログラム開発時によく使う機能としては、エディタを使ってプログラムを作る、プログラムを翻訳して実行する、ディスクに登録されているファイルの一覧表を表示するなどである。

要は、自分の仕事に必要な最低限のコマンドを使うことから出発してコンピュータに慣れていけば、コマンドの山に圧倒されることなくコンピュータに親しむことができるようになる。

## 生体からの微弱発光

鈴木喜隆

ホタルやウミホタルが光つても驚く人はいないでしょうが、ヒトの血液やウニの卵が光ると聞いたら半信半疑の顔をされることと思います。実際には、すべての生物があらゆる部分から光を出していて、髪の毛から足の爪先まで、光らない所はないと言つても過言ではありません。ただ、強い弱い差はあり、血液や尿や肝臓がよく光るのに対し、その他の部分は比較的弱くしか光りません(弱くて眼に見えない。一秒あたり1 $\times 10^{-10}$ フォトン/cm $^2$ 微弱発光と呼ばれる)。また、場合によって光が強くなったり、弱くなったりもします。例えば、タバコを吸うと血液や尿が一桁位強く光るし、白血球の光は細菌を食い殺す際に強くなり、ガンを罹るとその部分の発光が強くなります。植物や動物の肌を傷つけると、傷口が傷の形なりに光り始めます。これらのことは、微弱発光が生体にとって何か生理的な意義があることを示唆しています。最近、人間の手が光るといふ記事を読んだ方もあるでしょうが、不思議な魔法か中国の気功術めいた雰囲気を感じただろうと思います。

科学的にみれば、これらは魔術でも何でもなく、脂肪など生体成分が酸素(または活性酸素)で酸化されて、過剰なエネルギーをもつ(不安定な)過酸化物になり、それが安定化する際にエネルギーを光として放出するというもので、ホタルやウミホタルと全く同じ発光原理に基づくものです。光(太陽エネルギー)を受け取つて、それを別の波長の光として放出する場合(蛍光)もあります。これらは発光の効率が悪いのでごく一部しか光にならず、大部分が熱として逃げてしまうため眼に見えないだけなのです。

では、発光の目的は何か、よく分かっていないのですが、考えられることは、生体にとって、酸素が必要だが同時に有害な存在であることと切つても切れない関係にあるということです。生物が発生した頃、地球上に酸素は存在しませんでした。存在したら、その頃の生物(嫌気性生物)は死滅してしまつたはずですが、現在でも生き残っているそれらの子孫の破傷風菌が極端に酸素に弱いことを見ればよく分ります。その後、生物によって遊離の酸素が作り出され、現在の酸素酸化によって生活している生物は、進化の過程でビタミンCやE、SOD(スーパーオキシドジスムターゼ)に代表されるさまざまな機構による酸化機能を身につけて酸素の毒性を克服し、酸素酸化の豊富なエネルギーを利用して繁栄して来たわけです。逆に、酸素の毒性を利用したものが白血球による殺菌作用であり、ウニなどの卵受精の際の発光であると考えられます。一方で、これらの酸化機構をくぐり抜けて漏れ出した活性酸素による過酸化の結果が積もり積もつて老化や発癌となり、微弱発光として現われたりするのです。

微弱発光(別名、生物フォトン)の研究は、その意味で生命の基本的現象に強く関連しているものと考えられ、発癌の早期検出、不老長寿にも結びつくものとの期待も夢ではなさそうです。



## 研究紹介

### 漁業学 磯 辺 篤 彦

地球温暖化やエル・ニーニョ等、海洋物理学のジャンルに入る全地球的な諸問題が、最近世間で話題となつてはいるが、私の専門とする分野はもう少しマイナーなスケールな、陸棚域から内湾域にかけての現象を取り扱う、いわゆる沿岸海洋物理学である。物理過程の研究を推し進める事は海洋の化学過程、水産資源の挙動、あるいは、人間のもたらす汚染負荷に対する海洋環境の応答を知ること、発展的に結びついて行く筈であるが、私自身未熟なので、そこまでの展望はまだよく見えない。

現在迄に行つてきた具体的な研究例として一つ挙げると、「海洋フロント」の問題がある。フロントとは、いわゆる潮目、潮境と呼ばれる海洋における異水塊の接線のことである。フロント近傍は流れの収束域になつている場合が多く、プランクトンや、浮遊ゴミの集積が見られる。私は、特に冬季の湾口部に形成される「熱塩フロント」に特定し、その生成機構を明らかにするべく研究を進めてきた。三次元の数値シミュレーションにより、計算機上で熱塩フロントが実現象に近い形で再現できる様に、生成因子を一つづつ検討していく作業を続けた。

その結果、現象の再現には成功し一応の成果を納める事はできたが、現象の力学的な議論には課題を残したと思つてゐる。

さらに現在は、ADCPという流向・流速計を山口外海水産試験場の黒潮丸に積みこんで、川尻岬—ウルサンの定線を二ヶ月に一度程度の間隔で横断観測している。これによつて対馬暖流をキャッチし、その挙動を知ろうというわけである。現在データ解析中であるが、潮流成分を如何にして生データから除去するか等課題も多く、悪戦苦闘している。

海洋物理学は比較的若い分野であり、私の様な新参者にも市場開拓の余地は充分残されていると思う。ここに述べた対馬暖流の挙動にも、不明な点は数多くあるし、海峡底部に存在する冷水の成因、挙動の研究も手がけてみたい。さらには、先に述べた熱塩フロントについても、継続して研究していきたいし、欲のする仕事には、きりが無い。また、次々と研究成果を出していかなければ願うけできない人達が私には多くいて、全く幸せなことだと思つてゐる。

## 北海道の水産研究

### 金 庭 正 樹

昨年四月に北海道の稚内より下関にやってきました。稚内では、道立稚内水産試験場の加工研究室に勤務

し、ホッケやナマコなど、地元で揚がる漁獲物の有効利用について研究していました。また、北大の大学院在学中はウニなどの棘皮動物の脂質が研究テーマでした。そこで私が北海道で見聞してきた水産の研究をいくつか紹介しましょう。

北海道の水産物というと皆さんはどんなものを思い浮かべられますか？サケ、ニシン、ケガニ、ホタテ貝、ウニ、コンブ、まだまだありますが、この中の一つか二つぐらいは思い浮かべられたことでしょうか。これらは北海道の特産品として道外に出荷されています。この特産品の資源管理や利用加工などの研究が北大水産学部や水産庁北海道区水産研究所、道立水産試験場などで行われています。

サケは秋になると産卵のために川を遡上します。この時期のサケの肉は、生殖巣に栄養がいつってしまうので味はよくなく、また自己消化酵素によつて肉が溶解しかかったものもあり、ブナザケといつて商品価値の低いものになります。このブナザケの付加価値向上が以前から望まれていました。そこでブナザケの肉に油脂などを加え均質化して乳化物とし、これに熱を加えて凝固させた豆腐様の食品、「サケトーフ」をつくる技術が水産試験場で開発されています。

ニシンは北海道の日本海側で昭和三十年頃まで大漁でした。その頃は大量の人たちがこのニシン漁に係わ

つており、その名残が今でもニシン番屋などとして北海道の日本海側に残っています。ところが、ニシンはその後ばつたりとれなくなり、このニシンがまたとれるようになるのかどうか、北海道の日本海側の漁民の中では最大の関心事です。水産試験場などではニシン資源の状況を調べ、今後のニシン資源を予測する研究が行われています。

ホタテ貝の最大の問題は貝毒の発生です。貝毒が発生するときびしい出荷規制が行われます。貝毒には、麻痺性と下痢性があり、どちらも毒化した植物プランクトンからホタテ貝体内に毒が蓄積して、貝自体が毒化します。貝毒は加工の段階で加熱などにより除くことができます。現在生きた貝に解毒剤などを与えて貝毒を除く研究が考えられています。これらはほんの一部です。水産王国の北海道だけあって水産関係の研究施設や研究内容は日本有数のものがあります。北海道で学んだ水産研究のノウハウをこちらでの研究に生かしていきたいと思つてゐます。

## 「胸躍る有機合成化学」

### 田 上 保 博

今年（一九九〇年）のノーベル化学賞は、ハーバード大学のE・J・コーリー教授が受賞された。受賞理由は「有機合成の理論および方法論



の開発」である。我々、有機合成化学徒にとっては待ち望んでいたことであり、非常に嬉しいことである。コーリー教授は複雑な天然物の化学合成の基礎を築き、最近の主要な天然物の多くを合成している。例えば、プロスタグランジン類（生体内の複雑な超微量物質で、血管拡張作用、子宮収縮作用、胃酸分泌抑制作用などがある）、ジベレリン（植物ホルモンで植物の伸長促進作用、花芽誘導作用、着花、果実の生長促進作用などがある）、抗生物質マクロライドなど約百種類もの天然有機化合物が挙げられ、これらの一部は工業化され、我々の日常生活に寄与している。

この有機合成化学と密接に関連しているのが天然物有機化学である。その中で、海洋天然物有機化学の話題を一つ提供しよう。

古くから有名な海産生物毒の三本柱は、フグ毒、麻痺性貝毒（赤潮毒）、シガテラ毒であると言われている。前者二つはその構造解明、全合成も完成していたが、最後のシガテラ毒の化学構造が東北大学の安元教授のグループによって、今年解明された。シガテラとはサンゴ礁周辺の魚介類を食べることによって起こる死亡率の低い食中毒で、長期間、下痢や嘔吐が続く、彼らは捕獲した四トンのウツボから、僅か三五〇マイクログラムのシガトキシンを単離し、構造決定を成し遂げている。毒の作用機

構などを解明するにはこのような微量では不可能で、そこで有機合成化学の登場となり、多量の試料が供給可能となるのである。

このように有機合成化学は人間生活に貢献し、非常に興味ある、夢のある分野である。恩師は私達に「四六時中、化学への傾倒と思索」を説かれた。また、恩師の師は九十三歳で生涯を終えられる間際まで、図書館へ通って仕事をされたと聞いている。

これらを胸に燕雀は、日本海の荒波の繁吹きを受けながら飛び立ちつつある。

### 海洋バイオテクノロジー

#### 鬼頭 鈞

我が国のノリ養殖の歴史は古く、遠く江戸時代に始まるとされています。その間沢山の技術改良が積み重ねられ、今日のような大量生産をもたらす一連の技術体系が出来上がったわけです。しかし、陸上作物に比べて大きく後れをとったのが品種改良の分野です。その原因の一つにノリの生活史の特殊性があげられます。海藻として食用にされているのは半数染色体期、即ち、花を咲せる植物なら花粉やめしべに当たる時期で、半分の数の染色体しかないステージなのです。従って、品種改良の常套手段である掛け合わせ（受精）技法の

適用が困難なのです。そこで取組んだのが最近になって急にこれこれ報道されるようになった細胞融合技術です。

細胞融合はその名が示すように、異なった遺伝子を持つ2つの細胞を、人為的に無理やりくっつけてしまう技法で、新しくできた細胞により広い遺伝的な幅を持たせることと、その細胞を上手に個体にまで育て上げて、両者の遺伝形質を兼ね備えた全く新しい生物を造り出そうというのが目標です。細胞融合には体細胞を利用します。そして、融合させるためには細胞を包んでいる細胞壁という厚い膜を酵素で溶かしてしまわなければならない。陸上植物ではほとんどの種がペクチナーゼとセルラーゼで事足りるのですが、海藻の場合は細胞壁の構成物質が複雑でこれらの酵素は役立ちません。あれこれ搜したのですが、現在はウニやアワビなど海藻を食べる動物の消化酵素とある種の海中細菌が体内に持つ酵素を自分で取出して使っています。細胞壁を溶かして裸にした細胞をプロトプラストといいます。このプロトプラストどうしをくっつけるにはPEGという粘性の高い物質を利用する方法と細胞の帯電性を利用する物理的（電気的）方法があります。後者の方が操作性に優れていることから、最近では殆どこの方法により、そして専用の機械が開発されていま

す。

現在ノリではプロトプラストがくつき新しい個体にまで生長するようになりました。ただ雑種としての確認ができていません。その確認のためにはマーカーといって確実に特定できる遺伝子を個体の中に組込んでしまわなければならない。前任地の研究所では若い研究者が毎日躍起となってその仕事を続けてくれています。同様の研究をここでも始めるかどうか思案中です。というのはここでは器具機材を揃えるのがあまりにも大仕事のように思えるからです。三年も五年もかかったのでは、こうした技術開発の仕事は世の中から大きく立遅れてしまいます。

### 滄溟寮に入って

#### 江野島 岳友



平成二年も残すところ後わずか、自分が滄溟寮に入って、早八ヶ月が過ぎた。本当に色々とおった八ヶ月であった。その中でも思い出深いのは部屋紹介である。簡単に言うとは自己紹介なのだ、そんなに甘つつ

よろいものではない。文章では、うまく表現出来ないのだが、上半身を振りながら「オス・ギョ・ギョ・ガツ・カ・イチネン・セ。」などとするのである。自分はヨット部に所属しているの、ヨット部の二年生の方が、その指導をしてくださいました。色々教えてくださるのだが、なかなかその通りにいかない。そうこうしている内に、部屋紹介の第一日目が始まった。一階から順に上の階へ行くので、自分は四階だから回ってくるのは、まだ余裕があると思っていたが、他の一年生が「もとい。」がかかって一時間近く舞台の上で部屋紹介をしているのを見ると、そんなのん気な事も考えられなくなった。「自分も、あなるかもしれない。そうこうしている内に自分の番が回ってきた。舞台の真ん中に立たされた時、もう逃げられない。自分でなんとかしなければ、ここから抜け出す事は出来ない。ヨット部の三年生の方が、一升瓶を持って応援の言葉をかけてくださる。心の中で「さあやるぞ。」「オス」「もとい。」いきなり「もとい」がかかった。

終わった後、どんな気持ちだったかは憶えていない。ただ寮の行事の中で一番辛い事が終わったんだという安心感があった。部屋紹介の期間中は、何故こんなに恐い思いをしなればならないのかと思つた。今でも部屋紹介の意義は分からない。しかし、あんなに緊張したのも、あんなに追い詰められたのも全ての一年生とは言わないが、ほとんどの者が初めてであつたらう。だが、なかなか終われない一年生を本心に心をつにして応援した瞬間は大切な物だつたと思う。

今日、寮生大会があつた。寮役の方々が「おまえらも来年から部屋つ子を持つようになるのだから、もつと自覚を持て。」とおっしゃつた。成程、自分がポーツとして居る内に、もうそんな時期になつて居る。なのに、最近、自分が全然出来て居ない事が痛烈に感じさせられることが多い。二年生になる事が、不安で仕方が無い。だが、不安だ不安だと言うだけで、そのままにしておくつもりはない、「努力する」と今日思つた。

### 「三大学対抗カッター競技大会を終えて。」

漁業学科 澤田浩伸

カッター部の平成二年度を締めくくる大会。三大学対抗カッター競技

大会。この大会が終わつたとき季節は、知らぬ間に晩秋へとうつろひでいた。この大会に備えて合宿を開始したのが、まだミンミンゼミが鳴いていた九月六日だつた。思えば二ヶ月近くカッターを漕いでいたことになる。合宿期間中、苦しいこともしばしばあつた。試験期間になれば、合宿と試験を両立させるのが大変だつた。特に機関学科の者は相当しんどかつたと思う。また十月から新人戦合宿に二年生が三人合流するため、三抗クルーは本来十二人で漕ぐカッターを六人で漕いでいた。一方、新人戦合宿に合流した二年生の三人も新人戦合宿独特の厳しい環境の中でカッターを漕いでいた。こういつた過程を通して二年生は大会に向けて鍛えられていつたのではないかと今思う。また、一年生は新人戦で西日本二位という実績をもつ猛者で、新人戦終了後四人に三抗合宿に参加することを依頼した。カッター部としては人数の少ない我が校にとつて、新人戦準備優勝、三大学対抗戦優勝は、チーム一丸となつた勝利だと自分は確信しており、それぞれに喜びもひとしおであつた。

話は、前後するが、我々カッター部の二年生は、全員体が小さくさらに細いので我々のときの新人戦合宿中挫折することが多々あつた。幾ら練習でカッターを漕いでいてもタイムは出ず劣等感に墜ちいつていく

ばかりであつた。そんな状態で挑んだ新人戦では惨敗を期した。当然の結果だつたかもしれない。それから一年後の今回の大会で優勝が決まつた瞬間、喜びに満ちあふれている艇内で不意にそんな昨年のことを思い起こし、光陰の如く流れる月日を感じてしまった。

入部したときは長い長いと思つていた部活生活も残り半年で終わってしまうのだなと。

次の大会は、来年五月に海上保安大学校で行われる全日本大会である。全国の精鋭達が死に物狂いで挑んでくる大会である。二年生にとつては現役のカッター部員としては最後の大会である。今年よりもひとまわりも、ふたまわりも大きくなつて吉見に帰つて来たいものである。

最後に大会の運営にあつて、三年生、四年生、専攻科の先輩方や、教官の方々に厚く御礼申し上げます。大会の円滑な運営は皆様方の御尽力の賜物であります。漕艇、大会の運営、全てにおいて、一致団結を要求される競技、カッターとはそんな競技ではなからうか。

### 「さらば、学祭」

漁業学科 山口景一

私は二年間、大学祭実行委員会と云う、学園祭を陰で支え運営する場所

副委員長に任命され、安食実行委員長ともども、平成二年度海燕祭の運営を諸先輩方から任せられたわけですが、私と委員長が、まず最初にやらなければならなかったことは、会員を集めなければならなかったことです。なにせ、今年残っていたのは私と委員長のみで、二人だけだったからです。最初は、身近な友達に声をかけ入ってくれるよう願ったのですが、なかなかよい返事はかえってきませんでした。そんなこんな苦労しているうちに、なんとか十五名集まりました。この人数も、他大学に比べれば本当に少ないです。これだけの人数でできるのだろうか、私の心の中を不安が走り抜けました。でも、やっていかなければならないと思いついたのです。このような、不安と戦い、責任という十字架を背負って新たな学祭への挑戦が始まったわけです。

四月から夏休みの間は、去年の運営状態と見比べて今年ほどのような運営を、そしてどのような企画を全面に打ちだしていくかということに終始しました。その間、委員長と二年生にパンフレットのことを任せつきりだったことが、今となってはきい気がします。いよいよ夏休みが終わり、学祭の季節が近づいてきたころでした。みんなで出しあった企画が次々とだめになっていってしまいました。金銭面、時間面、人間の人数などなど。このような壁が私の目の前をさえぎっていたのでした。その時の私の気持ちは、焦りという立しい気持ちでいっぱいでした。それと同時に、負けてなるものかという気持ちも湧いていました。こうして、苦労して学祭をむかえるに至ったのです。

学祭一日目、前日の雨に悩まされみんなドタバタしっぱなしの大変な一日でした。メインは確かに二日目だったので、あまり気にならなかったのですが、天候だけがこの時の不安材料でした。そして、二日目が終わりました。「今日で何もかも全てが終る。…」そう考える暇もなく、その日は本当にみんなせわしく動きまわっていました。私の場合、みなみらんぼうさんの講演会担当だったので、ステージは他の人に任せて私はらんぼうさんの接待と講演会の打ち合わせをすませ、後は午後一時の開演を待つのみでした。だが、お客様の入りかと思うようにいかず、少々慌ててきましたが何とかそれらしくなり、講演会は始まりました。遅れて始まりはしたものの、終始なごやかに笑いを交えながら講演会は進みました。大成功とまでは言えませんが、私の中では満足感と安堵感でいっぱいでした。その後の出し物は私だけかもしれません、スムーズに進行し、無事に学祭は終わりました。

足早に私がやってきた学祭と言うものを紹介していきましました。最後に私が学祭で学んだことは、人を信じるということ。確かに難しいことですが、でも、私はこれからの人生自分を信じ、人を信じていきたいと思えます。それと、いろいろお世話になった人々にこの場をかりてお礼を言いたいと思います。いろいろと学祭に使うテントなどの貸し出しを手伝ってくださった学生課のみなさん、私たち男性の気づかないところをフォローしてくださった梅大実行委員会のみなさん、そして、最後まで頑張ってくれた学祭のみんな、本当にありがとう。それと三年間私を育ててくれた学祭へありがとう。そして…さらば、学祭…。

## 休学的一年

### 夢実現オーストラリアへ

増殖四年 鷺井 広

一九八九年三月末、一年休学した私の日記には、こうあった。  
 「この一年は、俺の高校時代からの夢であり、男である俺がそれを実現できるのは、一生で今しかない。そう、空白の一年、誰からも干渉されず、何もかも自分の意志一つ。成功するも失敗するも自分次第、何が何でも成功いや、後悔したくない。自分を試す、自分に挑戦する一年」と。  
 資金稼ぎで、再三予定を裏切られ、本当にオーストラリアに行けるのかと思われ続けた毎日、四ヶ月余り

夜の作業をし、過労から胃炎になった時もあった。しかし、そんな時、何よりも私を励ましたのが、自分の夢と目標だった。

そして、何とか出発の日を迎える事のできた私だったが、今度は、不安とプレッシャーに悩まされる日が出発日まで続いた。海外初体験が、四ヶ月一人旅、英語に自信がある訳でもなく、一泊目の予約すらない。かと言って、早々に、帰る訳にも行かない、ここまで来た以上は…。

空港に見送りに来てくれた友人が朝食もろくに喉を通らなかつた私の緊張を和らげてくれる。冗談を言いながらも、私を心配してくれる友達、何よりも、私の財産だと思つた。

次の日、そこは澄みきつた青空の私の夢、オーストラリア。まず、現地の人と一緒に生活するという目的は、一人の日本人留学生との出会いによって、難無く成された。英語学校というおまけ付きでホームステイを始めた私には、毎日が驚きと感激の日に。飛び込みで学校を訪れ、規定外の五週間の授業と簡単なアンケートでその日、ホストファミリーを決めてしまふ豪州人。血の日曜日事件の話で盛り上がった、徴兵経験のある台湾人。放課後やったバスケットで、八カ国の人が入り混つた。おまけどころか、とても貴重な体験だった。

豪州人には、異国の人を自然に、

受け入れてくれる雰囲気がある。人に対してダイレクトで、休日第一の考えも強い。すばらしい事と思うが、日本人も彼らに真似できない勤勉さと、技術を持つている。こうして、さまざまなる事を比較する内、ここにきた価値を、初めて日本人としての自覚を感じ、誇りすら持てた。

結局、残り二ヶ月半で、豪州東半分を回り、大自然を堪能したのだが人との出会いで、私の旅は、よりすばらしいものとなった。

帰る前に、ホストファミリーと再会し、涙の別れをした。豪州での素敵な思い出と共に、この一年の目標達成を喜びながら日本に帰り着いた。そして今、何より、私の夢実現を尊重し、見守ってくれた両親に一言ありがとうと言いたい。

### 平成三年度 入試について

平成三年度の入試は、共通一次試験が大学入試センター試験と衣替えをし、二年目を向え私学の参加もあつて志願者は過去最高となりました。本校は、入試センター試験には参加していませんが、志願者数は大体安定しています。とはいえ、一九九二年をピークに十八才人口が減少するので、その対策が大切です。本校の入学選抜方法は一般入試、

推薦・一般入試の志願者数等

( ) は女子

学科	推薦入試						一般入試		試験会場	
	A		B		計		志願者数	計	下関	東京
	志願	合格	志願	合格	志願	合格				
漁業	6	5	15	7	21	12	111(4)	132(4)	67	65
機関	12	5	17	9	29	14	124(2)	153(2)	107	46
製造	4	4	14(3)	9(2)	18(3)	13(2)	135(2)	153(2)	112	41
増殖			16(2)	6(1)	16(2)	6(1)	315(2)	331(2)	205	126
計	22	14	62(5)	31(3)	84(5)	45(3)	685(5)	769(5)	491	278

推薦入試及び帰国子女特別入試の二通りで実施します。これ以外に外国人(私費留学生)の受け入れとして、外国人特別入学制度を設けています。推薦入試は、水産高校出身者のみを対象とするA制度と、特定の高校出身者に限定しないB制度の二つに分れ、実施されました。

一般入試は、二月十五日に下関(本校)と東京(東海大学代々木校舎)の二か所で行われ、志願者数は次表のとおりですが、最近よく

云われていますように目的意識をしっかりと持ち、やる気充分の気概を持って志願してもらいたいものです。

### 平成二年度卒業生進路状況

近年、企業等の求人件数は全国規模で増大の一途をたどっています。本校におきましても例外でなく、三百五十余件の求人申込がありました。その内容は、水産関係及びソフト開発関連企業の増加傾向にあります。

なお、進路別人員調べ、及び進路先の一部を紹介いたします。

進学	就職
鹿児島大学	福山県
岡山大学	山口県
神戸商船大学	広島県
北海道大学	熊本県
東京水産大学	(諸団体)
徳島大学	(社)日本海事検定協会
長崎大学	函館漁業公社
三重大学	全国漁業協同組合連合会
高知大学	全国共済水産業協同組合
水産大学校研究科	日本岳詰検査協会
水産大学校専攻科	(民間企業)
	日本水産
	ケンコウ・マヨネーズ
	宝幸水産
	日魯漁業
	東京都水産
	東芝エンジニアリング
	阪神内燃機工業
	田崎真珠
	南西糖業
	日川
	香川
	福島
	茨城
	海上自衛隊
	農林水産省
	(官公庁)

区分	進学・就職希望数	進学		就職							合計		
		大学院	専攻科	国家公務員	地方公務員	各種団体	水産会社	船舶会社	造船造船会社	食品会社		その他	
船舶運航	11	0	0	0	1	0	3	4	3	0	0	0	11
船用機関	6	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0	1	6
漁業	42	1	0	16	0	2	3	8	1	0	6	5	42
機関	38	2	0	7	0	1	2	0	0	24	1	1	38
製造	50	5	0	0	0	0	3	17	0	0	19	6	50
増殖	35	5	5	0	2	2	1	7	0	1	1	11	35
研究	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	2	5
計	187	13	5	23	4	5	12	37	7	27	28	26	187